

平成 30 年度  
富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価  
学 校 第 三 者 評 価

令和元年 8 月

富 良 野 市 教 育 委 員 会

# 目 次

I	点検・評価の概要	
1、	教育委員会事務事業点検・評価	1
2、	学校評価	1
3、	点検・評価の手法及び公表	1
II	教育委員会の活動点検・評価	
1、	教育委員会の活動の一覧	5
2、	教育委員会議	10
3、	教育委員会活動の評価	10
III	平成30年度教育委員会事務事業点検・評価	
○	事務事業点検・評価結果一覧	13
○	教育委員会行政組織図	15
○	学校教育課所管事務事業点検評価シート	16
○	社会教育課所管事務事業点検評価シート	35
○	こども未来課所管事務事業点検評価シート	48
○	虹いろ保育所所管事務事業点検評価シート	52
○	生涯学習センター所管事務事業点検評価シート	54
○	図書館所管事務事業点検評価シート	59
○	富良野学校給食センター所管事務事業点検評価シート	63
IV	平成30年度学校第三者評価	69
V	教育行政評価委員会の開催について	
1、	教育行政評価委員会	79
2、	教育行政評価委員会における意見	80
資料1	富良野市教育行政評価委員会設置要綱	83
資料2	教育行政評価委員名簿	84
資料3	地方教育行政の組織及び運営に関する法律	84
資料4	平成30年度 学校教育 重点事項	85

# I 点検・評価の概要

## 1、教育委員会事務事業点検・評価

富良野市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り市民への説明責任を果たすことを目的として、平成20年度分の事務事業から点検・評価を実施しています。

今年度も、平成30年度の教育に関する事務の管理及び執行状況として52事業に対する点検・評価を実施しました。

## 2、学校評価

学校評価については、平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者（市教育委員会）への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成19年度から試行的に学校評価に取り組み、平成20年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成20年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価を行うため、平成30年度評価においては評価項目16項目、25観点について教育行政評価委員会において実施しました。

## 3、点検・評価の手法及び公表

### 1) 教育委員会事務事業点検・評価報告

平成30年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行い、その結果を教育行政評価委員会において説明し、各委員より意見をいただきました。

#### ①達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのか

を評価する。

<評価基準>

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。または、評価せず。

## ②効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

<評価基準>

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。または、評価せず。

## 2) 学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」をめざして行っています。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、平成23年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった16項目25観点について各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を実施いたしました。

## 3) 公表

公表は議会、市広報紙・市ホームページに掲載するとともに、市の主な公共施設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

## 4) 評価結果

平成30年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準A～Dの4段階で集計を行いました。

## ◎事務事業評価

第1表 事務事業評価【達成度】

	A	B	C	D	計
件数	25	25	0	2	52事業
構成比(%)	48.1	48.1	0	3.8	100%

評価基準 A：実践が進み成果を上げている。

B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D：ほとんど(全く)実践されず、努力を要する、または、評価せず。

第2表 事務事業評価【効果度】

	A	B	C	D	計
件数	45	5	0	2	52事業
構成比(%)	86.6	9.6	0	3.8	100%

評価基準 A：期待どおりの効果が得られたと判断される。

B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D：期待した効果がほとんど(全く)得られなかったと判断される、または、評価せず。



第1回評価委員会議  
(令和元年5月27日)



第2回評価委員会議  
樹海小学校訪問  
(令和元年7月8日)



第2回評価委員会議  
樹海中学校訪問  
(令和元年7月8日)



第2回評価委員会議  
山部中学校訪問  
(令和元年7月8日)



第3回評価委員会議  
校長会との意見交換  
(令和元年7月25日)

## 教育委員会の活動点検・評価

平成30年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会独自による点検を行いました。

### 1、教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、偶数月に定例会を、必要に応じ臨時会を開催しました。また、毎月1回教育委員協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、報道機関への案内をするとともに、市ホームページに会議の内容等を掲載しています。

以下、平成30年度の会議開催状況等を示し、それぞれの活動内容について報告します。

#### 1) 平成30年度教育委員会会議実施状況

##### (1) 開催回数

定例会：11回（毎月）

臨時会：2回（随時）

委員協議会：12回（毎月）

##### (2) 付議件数

内 容	件 数
条例、規則等に関する事	14
議会の議決を経るべき議案に関する事	5
人事に関する事	3
委員の委嘱等に関する事	19
その他	18
計	49

#### 2) 教育委員会会議の開催状況

回	開催日	開催内容
第2回 定例会	4月16日	(1) 富良野市立山部中学校の廃止について (2) 平成30年度富良野市育英基金育英生の選考について (3) コミュニティ・スクール協議会委員の任命について (4) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について (5) 富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について (6) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について (7) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について (8) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について
第3回 臨時会	5月28日	(1) 富良野市放課後児童健全育成事業の設置及び運営の基準に関する条例の一部改正について (2) 富良野市社会教育委員の委嘱について (3) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について (4) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について (5) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について (6) 富良野市教育委員会公印規程の一部改正について (7) 富良野市教育委員会教育長の営利企業等へ従事について

## II 教育委員会の活動状況

第3回 定例会	6月27日	(1) 富良野市教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部改正について (2) 平成30年度一般会計予算の補正報告（専決処分）について (3) 富良野市教育委員会職員等の人事異動報告（専決処分）について
第4回 定例会	7月17日	なし
第5回 定例会	8月31日	(1) 平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果」への市町村別結果の掲載について (2) 平成31年度使用する教科用図書の採択について (3) 平成29年度富良野市教育行政評価報告書について (4) 富良野市子ども・子育て支援法施行細則の一部改正について (5) 修学旅行の引率業務等に従事する富良野市立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要綱の制定（専決処分）について
第6回 定例会	9月26日	(1) 平成30年度就学時健康診断員の委嘱について (2) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について (3) 平成30年度一般会計予算の補正報告（専決処分）について
第7回 定例会	10月23日	(1) 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について (2) 富良野市青少年章規則に基づく平成30年度表章者の決定について (3) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について
第8回 定例会	11月23日	(1) 富良野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例の一部改正について (2) 富良野市立へき地保育所設置条例の一部改正について (3) 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
第9回 定例会	12月17日	(1) 教職員の懲戒（専決処分）について (2) 平成30年度富良野市一般会計予算の補正報告（専決処分）について
第1回 定例会	1月18日	(1) 面接指導医の委嘱について
第2回 定例会	2月15日	(1) 富良野市教育基金条例の一部改正について (2) 富良野市放課後児童健全育成事業の設置及び運営の基準に関する条例の一部改正について (3) 富良野市ひとり親家庭等日常生活支援事業規則の一部改正について (4) 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表について (5) 平成31年度教育行政執行方針について (6) 富良野市立学校における働き方改革推進計画の策定について (7) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について
第1回 臨時会	3月7日	(1) 教職員人事の内申について
第3回 定例会	3月25日	(1) 富良野市立学校管理規則の一部改正について (2) 富良野市立学校職員服務規程の一部改正について (3) 修学旅行の引率業務等に従事する富良野市立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部改正について (4) 平成31年度富良野市社会教育推進計画の策定について (5) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について (6) 富良野市スクールカウンセラーの委嘱について (7) 富良野市子どもと親の相談員の委嘱について (8) 平成31年度認可保育所における嘱託委の委嘱について

		(10) 平成 30 年度一般会計予算の補正報告（専決処分）について (11) 平成 31 年度一般会計当初予算の報告（専決処分）について (12) 富良野市教育委員会職員等の人事異動報告（専決処分）について
--	--	--

3) 教育委員会委員協議会の開催状況

回	開催日	開催内容
第 5 回 協議会	4 月 16 日	協議(1) 富良野市立山部中学校の廃止について 協議(2) 平成 30 年度富良野市育英基金育英生の選考について 協議(3) コミュニティ・スクール協議会委員の任命について 協議(4) 富良野市教育行政委員の委嘱について 協議(5) 学校教育指導委員会委員の委嘱について 協議(6) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について 協議(7) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議(8) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校 開放管理指導員の委嘱について 報告(1) 平成 30 年度学校編成及び学校職員名簿について 報告(2) 平成 30 年度富良野市小中学校の主な行事予定について協議
第 6 回 協議会	5 月 28 日	協議(1) 富良野市放課後児童健全育成事業の設置及び運営の基準に関する条例の一部改正について 協議(2) 富良野市社会教育委員の委嘱について 協議(3) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 協議(4) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について 協議(5) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について 協議(6) 富良野市教育委員会公印規則の一部改正について 協議(7) 富良野市教育委員会教育長の営利企業等への従事について 報告(1) 平成 29 年度図書館開館日数増及び開館時間延長試行結果について 報告(2) 2018 こどもの図書館まつり実績報告について 報告(3) 煙突用断熱材のアスベスト含有調査結果について協議
第 7 回 協議会	6 月 27 日	協議(1) 富良野市教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部改正について 協議(2) 平成 30 年度一般会計予算の補正報告（専決処分）について 協議(3) 富良野市教育委員会職員等の人事異動報告（専決処分）について 報告(1) 平成 30 年度富良野市社会教育推進計画について 報告(2) 平成 29 年度学社融合事業実践集録「クリエイティブふらの」について 報告(3) 富良野地区中体連について 報告(4) 平成 30 年度いじめアンケート調査の結果について
第 8 回 協議会	7 月 17 日	報告(1) 富良野市議会第 2 回定例会について 報告(2) 富良野地区中体連・上川代表決定戦の結果について 協議(1) 第 1 回富良野市総合教育会議について

## II 教育委員会の活動状況

第9回 協議会	8月31日	協議(1)平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告」への市町村別結果の掲載について 協議(2)平成31年度使用する教科用図書の採択について 協議(3)平成29年度富良野市教育行政評価報告書について 協議(4)富良野市子ども・子育て支援法施行細則の一部改正について 協議(5)就学旅行の引率業務等に従事する富良野市立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の制定(専決処分)について 報告(1)平成30年度全国学力・学習状況調査結果(速報値)について 報告(2)中体連全道陸上大会について
第10回 協議会	9月26日	協議(1)平成30年度就学時健康診断員の委嘱について 協議(2)富良野市特別委支援連携協議会委員の委嘱について 協議(3)平成30年度一般会計予算の補正報告(専決処分)について 報告(1)富良野市議会第3回定例会について 報告(2)「市長と語ろう!地域懇談会」の開催について 報告(3)北海道胆振東部地震に係る各学校の対応について
第11回 協議会	10月30日	協議(1)平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について 協議(2)富良野市青少年表彰規則に基づく平成30年度表彰者の決定について 協議(3)富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について 報告(1)いじめ・ネットトラブル根絶!メッセージコンクール結果について
第12回 協議会	11月23日	協議(1)富良野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例の一部改正について 協議(2)富良野市へき地保育所設置条例の一部改正について 協議(3)平成30年度全国学力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 報告(1)平成29年度保育所自己評価について 報告(2)H30 いじめZEROメッセージコンクールの審査結果について 報告(3)平成30年度いじめアンケート調査の結果について
第13回 協議会	12月17日	協議(1)教職員の懲戒(専決処分)について 協議(2)平成30年度一般会計予算の補正報告(専決処分)について 報告(1)平成30年度第4回定例会について
第1回 協議会	1月18日	協議(1)面接指導医の委嘱について 報告(1)富良野地区中体連スキー大会の結果について
第2回 協議会	2月15日	協議(1)富良野市教育基金条例の一部改正について 協議(2)富良野市放課後児童健全育成事業の設置及び運営の基準に関する条例の一部改正について 協議(3)富良野市ひとり親家庭等日常生活支援事業規則の一部改正について 協議(4)平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表について 協議(5)平成31年度教育行政執行方針について 協議(6)富良野市立学校における働き方改革推進計画の策定について 協議(7)富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について 報告(1)イングリッシュキャンプ実施報告について
第3回 協議会	3月25日	協議(1)富良野市学校管理規則の一部改正について 協議(2)富良野市学校職員服務規程の一部改正について 協議(3)就学旅行の引率業務等に従事する富良野市立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部改正について 協議(4)平成31年度富良野市社会教育推進計画の策定について

	<p>協議(5) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について          協議(6) 平成 31 年度富良野市学校医等の委嘱について          協議(7) 富良野市スクールカウンセラーの委嘱について          協議(8) 富良野市子どもと親の相談員の委嘱について          協議(9) 平成 31 年度認可保育所における嘱託委の委嘱について          協議(10) 平成 30 年度一般会計予算の補正報告（専決処分）について          協議(11) 平成 31 年度一般会計当初予算の報告（専決処分）について          協議(12) 富良野市教育委員会職員等の人事異動報告（専決処分）について          報告(1) 第 1 回富良野市議会定例会について          報告(2) 平成 31 年度区域外通学について          報告(3) 富良野市学校施設整備に関するアンケート調査結果について</p>
--	---

4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4月3日 4月9日 4月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員着任式</li> <li>・着任校長、教頭歓迎会</li> <li>・平成30年度上川管内教育委員会連合会総会及び第1回委員研修会</li> </ul>	文化会館 ワインハウス 上川合同庁舎
5月23日 5月下旬～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度少年の主張大会</li> <li>・各小中学校運動会(5月下旬～6月上旬)</li> </ul>	文化会館 小・中学校 各小中学校
6月15日 6月15日 6月18日 6月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野市戦公没者追悼式</li> <li>・平成30年度富良野市音楽大行進</li> <li>・平成30年第2回富良野市議会定例会開会</li> <li>・教育委員学校訪問(山部小・布部小中・扇山小富良野小・虹いろ保育所)</li> </ul>	朝日ヶ丘公園 文化会館 市役所議事堂 各小中学校等
7月5日 7月17日 7月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会を明るくする運動街頭パレード</li> <li>・教育委員学校訪問(西中、東中、東小、鳥沼小、山部保育所)</li> <li>・富良野市総合教育会議</li> </ul>	フラノマルシェ 2 各小中学校 市役所
8月21日 8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会</li> <li>・教育委員学校訪問(樹海中、樹海小、麓郷小中、布礼別小、山中)</li> </ul>	岩見沢市 小・中学校
9月11日 9月中旬～ 9月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年第3回富良野市議会定例会開会</li> <li>・各小中学校学芸会、学芸祭(9月中旬～11月上旬)</li> <li>・富良野市内小中学校音楽発表会</li> </ul>	市役所議事堂 各小中学校 文化会館
10月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上川管内教育委員会連合会研修会</li> </ul>	上川町
11月3日 11月23日 11月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野市条列表彰式</li> <li>・平成30年度富良野市青少年表彰式</li> <li>・第10回富良野市子ども未来づくりフォーラム</li> </ul>	市役所 文化会館 文化会館

## II 教育委員会の活動状況

12月5日	・平成30年第4回富良野市議会定例会	市役所議事堂
1月8日	・平成31年富良野市新年交礼会	文化会館
1月9日	・平成31年山部地区新年交礼会	山部福祉センター
1月9日	・平成31年東山地区新年交礼会	東山公民館
1月10日	・平成31年富良野市新春教育懇話会	ハイランドふらの
1月13日	・平成31年富良野市成人式	文化会館
1月18日	・平成30年度富良野市PTA連合会新年懇親会	ハイランドふらの
2月26日	・平成31年第1回富良野市議会定例会開会	市役所議事堂
3月中旬～	・各小中学校卒業式	各小中学校
3月25日	・離任式	図書館
3月25日	・校長、教頭惜別式	ハイランドふらの

### 2、教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3) 委員会規則その他委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- (4) 請願、陳情等の処理に関すること。
- (5) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。
- (6) 教科用図書採択に関すること。
- (7) 学校その他教育機関の敷地の選定及び変更に関すること。
- (8) 委員会及び委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (9) 道費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (10) 条例又は委員会規則に基づく委員会表彰の受賞者の決定に関すること。
- (11) 法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱すること。
- (12) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出ること。
- (13) 通学区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (14) 富良野市育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定すること。
- (15) 長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (16) 市文化財を指定し、又は指定を解除すること。
- (17) 児童生徒の出席停止に関すること。

### 3、教育委員会議の評価

#### 1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の委嘱等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成27年4月1日から施行されましたが、執行機関としての教育委員会の位置付は維持されており、公立小中学校の管理、教職員の人事その他の教育委員会の所掌に係る事務は、引き続き教育委員会の合議に基づいて執行されるこ

ととなっております。このため、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保、教育行政への多様な民意の反映、教育長及び事務局が執行する事務の評価・監視という教育委員会の役割の重要性に変更はありません。

### 2) 学校訪問について

教育委員と事務局職員により市内15校の小中学校を全て訪問し、校長・教頭からの説明及び児童生徒の学習の様子を見学し、子ども達の学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から、学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況についての把握に努めています。

また、虹いろ保育所・山部保育所も併せて訪問し、施設概要や運営方針、子どもたちの様子を視察・把握することにも努め、児童福祉及び教育の観点・視点の一元化による幼児期からの一貫した特別支援の推進や福祉サイトと教育サイトの相談支援体制の総合的な構築についても理解を深めています。

### 3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

各学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭・卒業式などの学校行事には、各委員が教育委員会を代表して出席をし、教育委員会が主管する教職員着任式、音楽大行進、青少年表彰式、成人式等の行事や式、会議に出席しました。さらに、全道、管内、富良野沿線の教育委員研修会にも積極的に参加し、教育に関する情報収集や教育行政の諸課題についての理解を深め、地域の実情や特性に応じた特色ある教育行政の推進に向けて研鑽を図りました。

### 4) 広報活動

定例会・臨時会の審議内容については、市のホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、今後も引き続き広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政の推進を図りました。



◎事務事業点検・評価一覧

所管課	評価項目		細項目		30年度評価		備考
					達成度	効果度	
学校教育課	1	市立小中学校配置計画	1	・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2	全国学力・学習状況調査	2	・全国学力・学習状況調査	A	A	
	3	全国体力・運動能力等調査	3	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	A	
	4	心の教育	4	・適応指導教室事業	A	A	
			5	・スクールカウンセラー活用事業	B	A	
			6	・子どもと親の相談員活用事業	B	A	
			7	・心に響く道徳教育事業	A	A	
	5	いじめZERO推進	8	・富良野市いじめ問題対策連絡協議会	A	A	
	6	特別支援教育	9	・特別支援教育支援員配置事業	A	A	
			10	・特別支援連携協議会推進事業	B	A	
	7	キャリア教育	11	・富良野市キャリア教育推進会議	B	A	
	8	食育	12	・食育推進事業	B	B	
	9	情報教育	13	・ICT利活用事業	B	A	
	10	国際理解教育	14	・外国語指導助手招致事業	A	A	
	11	健康診断事業	15	・児童生徒、教職員健康診断実施事業	B	A	
12	小中学校歯科衛生	16	・フッ化物洗口事業	A	A		
13	高校教育	17	・高校教育の推進	A	A		
14	コミュニケーション教育	18	・学校教育コミュニケーション教育推進事業	A	A		
15	芸術文化	19	・子ども芸術鑑賞教室事業	B	B		
社会教育課	16	家庭教育	20	・家庭教育支援事業	B	A	
			21	・親と子のふれあい事業	B	A	
	17	青少年教育	22	・子ども未来づくり事業（未来づくりフォーラム）	A	A	
			23	・ふらのまちづくり未来ラボ推進事業	B	A	
			24	・子ども会育成事業	B	A	
			25	・青少年表彰事業	B	A	
			26	・青少年補導センター運営事業	B	A	
			27	・放課後子ども教室推進事業	B	A	
			28	・児童館・学童保育センター運営費	B	A	
			29	・学社融合推進事業	A	A	
	30	・青年活動活性化事業（青年塾）	—	—	H30青年塾解散		
18	成人教育	31	・ふらの市民講座事業	B	B		
19	高齢者教育	32	・ことぶき大学運営事業	B	A		

所管課	評価項目		細項目	30年度評価		備考
				達成度	効果度	
こども未来課	20	子育て支援	33・ファミリーサポートセンター事業	B	A	
			34・子育て支援センター運営費	B	A	
			35・こども通園センター運営費	B	A	
			36・へき地保育所運営費	B	A	
虹保育い所	21	虹いろ保育所	37・認可保育所運営費	A	A	
			38・障がい児保育事業費	A	A	
生涯学習課	22	文化財保護	39・文化財保護啓蒙・普及活動	B	B	
	23	博物館	40・博物館活動推進事業	A	A	
			41・自然体験・環境学習事業	A	A	
	24	文化振興	42・山部菊の会補助金	—	—	H30活動休止
25	森林環境教育	43・森林学習プログラム推進事業	B	B		
図書館	26	図書館	44・図書館運営管理事業	A	A	
			45・図書資料整備事業	A	A	
			46・読書活動推進事業	A	A	
			47・子どもの読書推進事業	A	A	
富良野中学校給食センター	27	富良野学校給食センター	48・安全安心な学校給食の提供	A	A	
			49・「富良野ふるさと給食」の実施	A	A	
			50・食に関する指導の推進	A	A	
			51・学校給食費の徴収	A	A	
			52・食物アレルギーの対応	B	A	
評価結果：集計			A（実践が進み成果を上げている）	25	45	
			B（実践が進んでいる）	25	5	
			C（実践に努めている）	0	0	
			-（評価せず）	2	2	
			計	52	52	

①達成度の評価基準

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。または、評価せず。

②効果度の評価基準

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。または、評価せず。

## 富良野市教育委員会行政組織

平成30年6月5日現在



## 富良野広域連合教育委員会行政組織図

平成30年6月5日現在



Ⅲ 平成30年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	市立小中学校配置計画					担当課	学校教育課				
事務事業名	適正規模適正配置に関する指針										
事業の目的・概要	少子化による児童生徒数の減少が進む中、子ども達にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、又、公平性を保ちながら次代を担う子ども達が常に良好な教育環境を確保していくための方向性を示す。	事業年度	開始		終了						
			初回平成17～19年度 平成21年度		継続						
			H26	H27	H28	H29	H30				
		事業費(決算) (単位:千円)	-	-	-	-	-				
前年度の課題	○今後とも、改定指針を基に、学校の在り方については、単P（保護者）や地域との意見交換を重ね、方向性を協議する必要がある。										
当該年度の目標	○「適正規模適正配置に関する指針（改正指針）」に基づき、単P等関係者への説明と地域との意見交換を行う。										
事業の実施状況	<p>○改正指針をもとに、必要に応じて説明会（意見交換会）を実施。 今後の児童生徒数の推移や、区域外通学の実態等の資料を提供。 ・布部小中学校（11月5日、2月26日 CS） ・麓郷小中学校（11月22日 CS）</p> <p>○樹海地区では、「樹海中のこれからを考える会」が発足され、今後の方向性について検討中。 今後の児童生徒数の推移及び小学校、中学校の教職員の見込み数等の資料を提示。 ・会議等の開催状況：全体会議～3回 保育所保護者との協議～2回 小学校保護者との協議～2回 小学校と保育所の保護者合同協議～1回 義務教育学校及び小中併置校視察見学実施（1月31日）</p> <p>○山部中学校は、地域要望を踏まえ、平成32年3月31日で廃止し、市内中規模校（富良野西中学校）との統合について、平成30年4月16日開催の教育委員会で決定。 学校では、閉校に向けて保護者（保育所、小学校、中学校）へアンケート調査実施。 その質問や意見を受け、保護者説明会を開催（9月12日、3月8日）</p>										
評価						達成度・効果度の検証					
	達成度	A	A	A	A	A	○適正規模適正配置に関して、教育委員会からの情報提供により、学校のあり方について保護者や地域住民による協議検討が図られている。				
	効果度	A	A	A	A	A	○各地域での保護者や住民との意見交換の機会により、情報の共有が図られた。				
今後の取り組み	今後の課題										
	○学校の在り方については、指針を基に単P（保護者）や地域と意見交換を重ねながら、方向性を検討する必要がある。										
	改善策										
	<p>○今後の児童生徒数の推移やPTA、地域の意向を十分に踏まえ、「市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する改正指針」を基に、保護者や地域等と意見交換を行っていく。</p> <p>○山部中学校については、保護者や地域住民の意思を尊重し、生徒・保護者が安心して統合校へ通学できるよう円滑な閉校・統合手続を進める。</p>										

評価項目	全国学力・学習状況調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国学力・学習状況調査						
事業の目的・概要	全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することで、教委施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などの検証改善サイクルを確立する。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
国費	国費		国費	国費	国費		
前年度の課題	<p>○校内授業の研究体制を整え、学習改善プランを実施するとともに、授業改善及び授業公開による学校における確かな学力向上の取組を進める必要がある。</p> <p>○家庭における生活習慣・学習習慣の更なる定着を図るため、市教委・学校・地域・家庭の連携を充実させることが必要である。</p>						
当該年度の目標	<p>○児童生徒の学力の向上と状況調査</p> <p>○質問紙調査による児童生徒の学習習慣の把握</p>						
事業の実施状況	<p>○実施日 平成30年4月17日(火)</p> <p>○調査対象及び調査された人数 小学6年生:170名 中学3年生:170名</p> <p>○実施教科 国語、算数・数学、理科</p> <p>【H30年度調査結果の概要】</p> <p>小学校では国語A・Bと理科の3教科で全国平均正答率と同等であり、算数の2教科では全国平均正答率を下回る結果となったが、領域別に見ると全国平均正答率の85～90%の達成率になっている。児童質問紙では「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回った。このことにより、国語Aの1領域、算数Bの1領域、理科の1の1領域において全国を上回ったと考えられる。</p> <p>中学校では5教科の全てで全国平均正答率を上回る結果となった。これは、各中学校における授業改善が着実に進んでいると捉えることができる。生徒質問紙では「家で、学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回った。このことにより、全ての教科で全国を上回ったと考えられる。</p>						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A		○授業公開や授業研究を通じた授業改善や小・中連携の取組、教職員の加配、特別支援教育支援員の配置、長期休業中の「学習サポート」など学習内容の着実な定着が現れてきている。
	効果度	A	A	A	A	○また、中学校では習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、全ての領域で全国を上回ったことが考えられる。	
今後組の	<b>今 後 の 課 題</b>						
	○確かな学力向上をめざして、学習改善プランの実施とともに、授業改善及び授業公開と家庭学習を含め望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。						
	○達成率の低い領域を中心に、各学校において「わかる授業」への授業改善及び教育課程の見直しに全力を挙げて取り組み、家庭・地域と連携して学力向上に努める。						
	<b>改 善 策</b>						
	○学校全体で学力向上に向けた取組を組織的に推進するため「学力向上推進委員会」などを組織し子どもたちの状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図るとともに、児童生徒・保護者に対する適切な助言や学習内容の確実な定着や家庭での学習機会を確保するための課題等を設定する。						
	○富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会の3者で構成する富良野市学力向上推進プロジェクトが調査結果を分析し作成した「富良野市における調査結果の概要」を基に取組を行う。						
	○「NRT式検査・教研式知能検査・ハイパーQ-U検査」結果を有効的に活用し、児童の学力向上を図る。						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査						
事業の目的・概要	全国的な児童生徒の体力状況を把握・分析することで、体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、各小中学校において、体力・運動能力向上の定着に向けた取り組みを図る。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			国費	国費	国費	国費	国費
前年度の課題	<p>○各学校でも独自に全学年で体力調査をおこなっており、継続とデータの蓄積の取組が行われており、引き続き体力向上の取組を継続する必要がある。</p> <p>○調査結果のデータを把握・分析し、児童生徒一人ひとりの体力や運動習慣等の改善の取組を進める必要がある。</p> <p>○家庭からの積極的な運動のすすめや徒歩での登校など、日常的に運動に接する機会を持つ必要がある。</p>						
当該年度の目標	<p>○児童生徒の体力の向上と現状調査</p> <p>○質問紙調査による児童生徒の運動習慣の把握</p>						
事業の実施状況	<p>○実施期間 4月から7月末</p> <p>○実施対象 小学校5年生：170名、中学校2年生：185名</p> <p>○実施種目 小学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン 50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ 中学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン 50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ</p>						
	<p>【30年度調結果の概要】</p> <p>小学校5年生男子で全国・全道平均を上回ったのは「上体起こし」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」の5種目で、「握力」は全国平均を上回っている。</p> <p>小学校5年生女子で全国・全道平均を上回ったのは「ソフトボール投げ」の1種目で、「握力」「反復横跳び」の2種目は全国平均を上回っている。</p> <p>中学校2年生男子で全国・全道平均を上回ったのは、「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」「ハンドボール投げ」の5種目で上回っている。</p> <p>中学校2年生女子で全国・全道平均を上回ったのは「ハンドボール投げ」の1種目で、全道平均を上回ったのは、「反復横跳び」「20mシャトルラン」の2種目となっている。</p> <p>児童・生徒への質問紙調査では、「運動が好き」と回答した割合は、小学校5年生男子で全国・全道平均を上回っており、小学校5年生女子、中学校2年生男子・女子共に、全国・全道平均を下回っている。</p>						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後組み	今後の課題						
	<p>○各学校でも独自に全学年で体力調査を実施しており、継続した取組とデータの蓄積により引き続き体力向上の取組を継続する必要がある。</p> <p>○調査結果のデータを把握・分析し、児童生徒一人ひとりの体力や運動習慣等の改善の取組を進める必要がある。</p> <p>○家庭からの積極的な運動のすすめや徒歩での登校など、日常的に運動に接する機会を持つ必要がある。</p>						
今後組み	改善策						
	<p>○小学校では少年団活動、中学校での部活動への積極的な加入を促し、家庭・学校・地域・スポーツ関係団体と連携しながら「知・徳・体」の調和のとれた成長を促進する。</p> <p>○「早寝・早起き・朝ご飯、みんなそろって晩ごはん」運動など、規則正しい生活習慣と食習慣による体力向上を推進する。</p> <p>○引き続き、新体力テストを全学年での実施し、児童生徒一人ひとりの数値目標を設定するなど、意欲的な体力向上を図る。</p>						

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	適応指導教室事業						
事業の目的・概要	<p>○不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、保護者・学校・関係機関等との連携のもと、学校への復帰や基本的な生活習慣の改善、豊かな情操や社会性の育成を図る。</p> <p>○不登校児童生徒や不登校児童生徒を抱える家庭の悩みや思いを受け止め、信頼関係の構築を図るとともに、自己肯定感や自己有用感の育成を意識した教育活動の充実に努め、ひきこもりや不登校問題の解決を目指す。</p>	事業年度	開始	終了			
			平成15年度	継続			
事業費(決算)(単位:千円)			H26	H27	H28	H29	H30
			2,592	2,592	2,592	2,592	2,592
前年度の課題	<p>○適応指導教室に通室している児童生徒の学校への復帰という視点では、在籍校との連携を強化していく必要がある。</p> <p>○適応指導教室の取組等について学校や保護者をはじめ広く地域に周知する必要がある。</p>						
当該年度の目標	<p>○家庭・学校・関係機関等との連携強化を図り、相談・支援・指導の充実に努める。</p> <p>○適応指導教室の取組等について、学校を通じて適応指導教室に係るチラシ等を各家庭に配布してもらうなどして教員や家庭への周知を図る。</p>						
事業の実施状況	<p>○不登校児童生徒や不登校児童生徒を抱える家庭に対する教育相談の実施。</p> <p>○通室児童生徒に対する学習活動の推進、自然散策・制作活動・軽スポーツ等の体験活動の実施。</p> <p>○通室児童生徒の実情を考慮した予約制による時間設定、個別指導による弾力的な取組の推進。</p> <p>○家庭や学校との連携、スクールカウンセラーなど関係機関との積極的な情報交換。</p> <p>○きめ細やかな支援や指導ができる体制の構築を目指し教員免許所有者を指導員として採用。(平成24年度から)</p> <p>○在籍者数 : 中学2年生 … 4名</p>						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	A	<p>○一人ひとりの実情に即した教育相談、学習支援や多様な体験活動、弾力的な個別指導は、通室児童生徒の生活意欲を培うとともに、基礎的な学力の定着や基本的な生活習慣の改善を促している。</p> <p>○スクールカウンセラーと連携を図りながら通室児童生徒や保護者に対する支援や相談活動に取り組んでいるが、そのような取組が信頼関係の構築に繋がっている。</p>
今後の取組み	<p style="text-align: center;"><b>今 後 の 課 題</b></p> <p>○適応指導教室に通室している児童生徒が抱える課題や問題の多くは、家庭などにも原因が起因していることから、通室児童生徒はもとより家庭に対する支援や指導の充実に努める必要がある。</p> <p>○適応指導教室の取組等について学校や保護者をはじめ広く地域に周知する必要がある。</p>						
	<p style="text-align: center;"><b>改 善 策</b></p> <p>○通室児童生徒や家庭との信頼関係を構築するとともに、通室児童生徒及び家庭への支援や指導の充実に向け、スクールカウンセラーをはじめとする関係機関等との連携強化に努める。</p> <p>○生徒や保護者に気軽に適応指導教室を訪問してもらえよう、学校を通じて適応指導教室に係るチラシ等を各家庭に配布してもらったり、市の広報を活用したりするなど、周知の手段や方法等を工夫する。</p>						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	スクールカウンセラー活用事業						
事業の目的・概要	生徒の不登校や問題行動等の対応に当たっては学校におけるカウンセリング等の機能充実を図ることが重要な課題となっている。このため、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し、生徒への心のケアを図る。 ・生徒へのカウンセリング ・教職者、保護者に対する助言・援助 道教委の派遣事業を申請し、平成30年度は採択。道費予算内で対応出来ない場合は市費で対応。	事業年度	開 始		終 了		
			平成17年度		継続		
		事業費(決算)(単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
道費 一部市費 83	道費		道費 一部市費 139	道費 一部市費 245	道費 一部市費 70		
前年度の課題	○各学校では教育相談の充実を図っているが、思春期の子どもたちの心の成長過程における悩みや不安を抱えることが多く、相談内容も多岐に亘っている。生徒をはじめ、教職員や保護者に対し、適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
当該年度の目標	○生徒の不登校、いじめへの対応と心のケア。						
事業の実施状況	○生徒へのカウンセリング 延 91件 ○教職員に対する助言・援助 延 42件 ○保護者に対する助言・援助 延 44件 ○H30年度実績 4校(富良野東中学校、富良野西中学校、山部中学校、樹海中学校) (道費・市費)日数・時間 延べ89日 266時間						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
○生徒・保護者・先生などがカウンセリングを受けたことにより、生徒の心のケア、保護者との相談業務の成果が上がっている。 ○適応指導教室との連携も図られており、登校に繋がっているケースもある。							
今後組み	今 後 の 課 題						
	○各学校では教育相談の充実を図っているが、思春期の子どもたちが心の成長過程における悩みや不安を抱えることが多く、相談内容も多岐に亘り、相談件数も増加している。引き続き、生徒をはじめ、教職員や保護者に対し適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。 ○平成31年度よりカウンセラー1名が交代するため、生徒、保護者、関係機関とのスムーズな引き継ぎが必要となる。						
	改 善 策						
○スクールカウンセラー、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、相談事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進める。							

評価項目	心の教育					担当課	学校教育課				
事務事業名	子どもと親の相談員活用事業										
事業の目的・概要	児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また、学校と保護者・地域のパイプ役として不登校や問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、児童虐待への対応及び小学校における教育相談体制の充実を図るため、相談員を小学校に配置。 ①児童の話し相手・悩み相談 ②その他の学校の教育相談活動の支援	事業年度	開 始		終 了						
			平成16年度		継続						
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30				
			1,754	1,589	1,682	1,869	1,680				
前年度の課題	○問題を抱えている児童や保護者へのきめ細やかな対応と、相談員と関わることのできないケースへのアプローチが必要。 ○配置している学校以外においても要相談ケースが発生しており、個別の対応が必要である。										
当該年度の目標	○いじめ・不登校などの未然防止や早期対応。										
事業の実施状況	○子どもと親の相談員を小学校に配置（富良野小、扇山小、東小） ○未配置の児童に対する個別カウンセリングの実施（鳥沼小、樹海小） ①児童の話し相手・悩み相談 ②家庭・地域と学校の連携の支援 ③その他の学校の教育相談活動の支援 ④中休み・昼休みを中心に来室 来室者 延べ199名（心の相談・学習相談・児童同士の相談など） ※児童、教員、保護者										
	○保護者に対する心のケアに関する講話の実施とカウンセリング体制の確立										
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証				
	達成度	B	B	B	B	B	○教室とは違った親しみやすく和める場所として開放している。 ○気になる児童や相談に訪れた児童の様子について担任教諭と情報共有し、よりきめ細かな見守りや相談活動に努めている。				
	効果度	A	A	A	A	A					
今後の取り組み	今 後 の 課 題										
	○問題を抱えている児童や保護者へのきめ細やかな対応と、相談員と関わることのできないケースへのアプローチが必要。 ○配置していない学校においても要相談ケースが発生しており、個別の対応が必要である。 ○カウンセリングが必要な児童の把握と対応が必要となってきた。										
	改 善 策										
	○来室児童が多いことは、潜在的なニーズがあると思われることから、担任とは違った側面から児童や保護者との相談の場として、専門的知識を有した者（臨床心理士等）を引き続き配置する。										
	○未配置校においても、学校と連携し、必要に応じて個別の対応を行う。										

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	心に響く道徳教育事業						
事業の目的・概要	自然体験や社会体験、生活体験の不足や人間関係の希薄さなどから規範意識や倫理観、生命を大切に他人を思いやる心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めるため、地域の人材や多様な専門分野の社会人を外部講師として活用し、道徳の時間等において子どもの心に響く授業を行い、道徳教育の充実に図る。	事業年度	開始	終了			
			平成19年度	継続			
事業費(決算)(単位:千円)			H26	H27	H28	H29	H30
			78	87	85	85	85
前年度の課題	○長年実施しているため、富良野市にゆかりのある身近でバラエティに富んだ講師（人材）の確保が求められる。						
当該年度の目標	○命を大切にすることを育む教育を推進する観点から、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道徳教育の充実。 ○全小中学校を対象に、児童生徒の自己有用感・肯定感や気づきを持てるような講話の実施。						
事業の実施状況	○富良野市にゆかりのある講師による道徳教育（講話）の実施 ・富良野商工会議所 会頭 荒木 毅 実施校 1 校 「職業観と人間の生き方について」 ・富良野自然塾 副塾長 林原 博光 実施校 2 校 「環境教育と人間の生き方について」 ・北海道大学 名誉教授 松井 博和 実施校 1 校 「地球の歴史と人間の生き方について」 ・静琴書道学院 主宰 大橋 静琴 実施校 4 校 「言葉の由来や表現について」 ・松本恵子（助産師） 実施校 5 校 「いのちの誕生と助産師の仕事」						
評価						達成度・効果度の検証	
		H26	H27	H28	H29	H30	○講師の豊富な知識や経験等に基づく講話により、児童生徒から「命の尊さ」や「新たな発見」といった感想も多く、子どもたちにとって心に響く講義となった。 ○派遣講師を昨年度の4名から5名へ増員し、全学校で実施することができた。
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○長年実施している事業であり、富良野市にゆかりのある身近でバラエティに富んだ講師（人材）の確保が求められる。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○市内企業からも講師派遣について協力を願う。 ○2019年度は現在、新たに3名の講師の確保を予定している。						

評価項目	いじめZERO推進	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市いじめ問題対策連絡協議会、富良野市いじめ問題審議会						
事業の目的・概要	富良野市いじめZERO推進条例に基づき協議会と審議会を組織し、協議会はいじめの未然防止・早期発見・早期解消、その他いじめの対処を図るとともに不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策について学校やPTA・各関係機関・団体とのネットワーク化を図り、情報交換を行い迅速かつ的確に対応する。  審議会は附属機関として、いじめZEROの推進に関する事項を調査審議する。	事業年度	開始	終了			
			平成26年度		—		
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			—	53	67	51	53
前年度の課題	○いじめアンケートの結果を検証し、引き続き、児童生徒への働きかけとともに授業や学級活動等で「いじめは絶対許されない」ことの理解や意識向上を図る必要がある。 ○いじめZEROに向けて講演会を開催し、地域全体で子どもを見守り、安心安全な学校・地域づくりを推進する必要がある。						
当該年度の目標	○いじめZEROに向けた各種取組取り組みとともに、児童生徒へ「いじめは絶対にゆるされない」ことの意識向上を図る。						
事業の実施状況	○市内17の関係機関・関係団体がいじめ問題対策連絡協議会を組織し、情報を共有し、子どもたちの安全な生活環境の確保に努めている。 対策連絡協議会～5月28日開催 【協議会構成団体】 ・校長会 ・PTA連合会 ・富良野高等学校 ・富良野緑峰高等学校 ・富良野警察署 ・富良野保健所 ・富良野医師会 ・人権擁護委員 ・連合町内会協議会 ・子ども育成連絡協議会 ・要保護児童対策地域協議会 ・生徒指導連絡協議会 ・社会教育委員会 ・富良野地方石油業協同組合 ・民生委員児童委員協議会 ・富良野市教育委員会・エクウエート富良野 ○いじめ審議会を開催し、いじめZERO事業の推進にあたって審議をいただいた。 ・審議会～11月15日開催 ○いじめに関する講演会の開催 ・11月14日開催 63名参加 ・講師 北海道教育大学旭川校 稲葉 浩一 准教授 ○富良野市いじめZEROメッセージコンクール ・応募総数 1,118点 (いじめZERO部門 840点、ネットトラブルZERO部門 278点) ・優秀作品36作品の表彰と市広報による市民周知						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証 ○いじめに関する講演会を開催し、いじめに関する様々な内容について学習する機会となった。 ○いじめZEROメッセージコンクールには小学校6校、中学校5校から応募があり、いじめ根絶の啓発につながった。 ○上川管内いじめ防止メッセージコンクールでは、最優秀賞1作品、奨励賞5作品が受賞した。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	B	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○いじめアンケートの結果を検証し、引き続き児童生徒へ働きかけるとともに、授業や学級活動でのいじめ根絶に対する理解を深めるほか、意識向上を図る機会を検討する必要がある。 ○いじめZEROに向けて講演会を開催し、地域全体で子どもを見守り、安心安全な学校・地域づくりを推進する必要がある。						
	改 善 策 ○再度「いじめ」に対する児童生徒への働き掛けを全小中学校で実施するとともに、積極的認知に努める。 ○引き続き、講演会やいじめ防止メッセージコンクールを実施し、市民に対してもいじめ防止の周知を図る。 ○児童生徒がいじめの未然防止に向けた内容を話し合う機会として、道教委主催の「どさんこ☆子ども地区会議」へ児童会・生徒会役員の参加を促し、意識啓発を図る。						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援教育支援員配置事業						
事業の目的・概要	<p>特別支援学級の児童生徒だけではなく、通常の学級に在籍する配慮・支援の必要がある児童生徒への教育的対応がより求められている。</p> <p>このため、富良野市特別支援教育マスタープランに基づき、こうした児童生徒に対する学校生活の介助や学習活動の支援、安全確保などのサポートを行うため、特別支援教育支援員を配置する。</p>	事業年度	開始	終了			
			平成20年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
		18,349	21,033	21,006	26,761	27,442	
前年度の課題	<p>○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが大切である。</p> <p>○増加し続ける対象児童生徒のニーズに応じた支援員の配置や増員。</p> <p>○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた支援・指導が必要。</p>						
当該年度の目標	<p>○障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進</p> <p>○各学校において、支援員とコーディネーター、教員とが情報共有ができる体制の整備</p>						
事業の実施状況	<p>○配慮・支援が必要な児童生徒は増えてきており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うための指導体制を進め、支援員の増員を図った。</p> <p>配置支援員 富良野小8名、扇山小5名、東小6名、山部小1名、鳥沼小1名、東中2名、西中3名の計26名 (平成29年度 25名、平成28年度 20名) 対象児童生徒 346名(平成29年度 341名、平成28年度 338名) (H30年度通常学級に在籍する特別な教育支援が必要な児童生徒数の調査+特別支援学級児童生徒)</p>						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	<p><b>達成度・効果度の検証</b></p> <p>○各学校のコーディネーターとの関わり、担任との情報共有において課題のある学校も若干みられるが、年々改善しながら、児童生徒の教育的ニーズに合わせた適切な支援に取り組むことができている。</p> <p>○低学年に手厚く対応することにより、就学後の不安解消につなげてきている。</p>
	達成度	B	B	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	<b>今 後 の 課 題</b>						
	<p>○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが大切である。</p> <p>○増加し続ける対象児童生徒のニーズに応じた支援員の配置や増員。</p> <p>○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた支援・指導が必要。</p>						
	<b>改 善 策</b>						
	<p>○研修・講習会を行い、配慮・支援が必要な児童生徒への適切な支援を行えるよう、さらなるスキルアップに努める。</p> <p>○各学校で行われている支援の方法やコーディネーター、教員との情報共有の方法などを全校で共有するとともに、各学校が抱える課題を連携協議会で共有し、関係機関との連携と課題解決ができる環境の整備</p> <p>○対象児童生徒の増加傾向に合わせた支援員の適正な配置</p>						

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援連携協議会推進事業						
事業の目的・概要	<p>新しく策定して富良野市第3次特別支援教育マスタープランに基づき、すべての幼児・児童・生徒が障がいのあるなしに関わらず、お互いの個性を尊重しあいながら夢と希望を持って心豊かにたくましく育ち合う教育の充実を図るため、関係者による特別支援連携協議会を組織する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図る</li> <li>・協議会に知的部会・情緒部会・言語部会・専門家チーム(就学相談・就学支援)を設置</li> </ul>	事業年度	開始	終了			
			平成20年度		継続		
		事業費(決算)(単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
	130	221	161	488	286		
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが必要である。</li> <li>○学校内でコーディネーター業務、役割等、引き継ぎのさらなる徹底が必要。</li> <li>○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。</li> <li>○第3次マスタープラン(平成30年度～)の活用を図る必要がある。</li> </ul>						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○障がいのあるなしに関わらず、特別な配慮・支援が必要な児童生徒のほか、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育の推進</li> <li>○各関係機関と一貫した連携と共通認識を図り、早期からの支援を行う。</li> <li>○児童生徒に対する適切な対応と関係者の十分な連携を図るため、協議会組織の構築を図る。</li> </ul>						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織体制の強化(就学相談・就学指導を行う専門家チーム・教育支援委員会及びコーディネーター連絡会の設置)</li> <li>○医療・福祉等関係機関との連携</li> <li>○就学時健康診断(知能検査、ことばの検査)の実施 10月15日、10月22日、10月29日</li> <li>○専門家チームによる幼稚園・保育所訪問の実施(年中・年長対象)</li> <li>○研修会・講演会の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>①コーディネーター連絡会研修会(6月14日34名) 「特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と対応」</li> <li>②第1回特別支援教育研修会(道立特別支援教育センター移動講座)(8月28日55名) 「発達障がいのある児童生徒の実態把握と授業づくり」</li> <li>③第2回特別支援教育研修会(道立特別支援教育センター研修会)(9月25日29名) 「WISC-IV知能検査の概要と解釈について」</li> <li>④第3回特別支援教育研修会(10月4日57名) 「育ちや学びをつなぐ支援をするために～次の富良野を支える子どもたちを育てる～」</li> </ul> </li> </ul>						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼保の会議に専門家チームも参加することで、情報交換ができ連携を図ることができた。</li> <li>○専門家チームが小中学校のコーディネーターとの兼務により、児童生徒の把握・理解がスムーズになった。</li> <li>○専門家が幼稚園・保育所、学校を訪問することで、幼稚園・保育所、学校での課題解決に向けて指導してもらうことができた。</li> </ul>
今後の取り組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが必要である。</li> <li>○学校内でコーディネーター業務、役割等、引き継ぎのさらなる徹底が必要。</li> <li>○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。</li> <li>○就学時健康診断時の二次検査の検査者の確保及び検査内容の検討。</li> <li>○教育相談の担当者を増やし、内容の充実を図ることが必要。</li> </ul>						
	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就学相談を含めた相談支援体制のさらなる充実に向け、関係機関と情報共有し児童生徒の把握・理解を図る。</li> <li>○特別支援教育に関する研修会を開催し、担当者のスキルアップを図る。</li> <li>○教育相談担当者養成集中講座等の活用により、教育相談・就学相談を担当できる人材を増加及びスキルアップを図る。</li> </ul>						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	キャリア教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市キャリア教育推進会議						
事業の目的・概要	キャリア教育は学校教育において児童生徒が「生きる力」を身に付け、勤労観や職業観及び職業に関する知識・技能等の育成を図る観点から関係機関、団体等が一体となり、協議・連携を推し進めていく必要がある。	事業年度	開始	終了			
			平成17年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			—	—	—	—	—
前年度の課題	○キャリア教育の目的の共有化を図り、目的に合った実践の推進。						
	○富良野市キャリア教育推進会議の活性化を図るため、組織の見直し。						
	○「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」がH29で終了し、実施の効果を生かした事業の推進。						
当該年度の目標	○児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観とともに自己有用感・肯定感の育成を図る。						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職場体験(職場見学)実施校 小学校8校、中学校6校、高等学校2校</li> <li>○マイノートの活用 小学校9校、中学校6校</li> <li>○体験的活動、ボランティア活動など 小学校9校、中学校6校</li> <li>○キャリア教育推進会議 3月27日開催 構成 市内小中学校、市内高等学校、商工会議所、市P連 旭川公共職業安定所富良野出張所、富良野市(商工観光課) 富良野デザイン会議、富良野市教育委員会(学校教育課・社会教育課)</li> </ul>						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	<b>今 後 の 課 題</b>						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育の目的の共有化を図り、目的に合った実践の推進</li> <li>○富良野市キャリア教育推進会議の活性化</li> <li>○「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」終了後の実施効果を生かした事業の検討</li> <li>○「マイノート(キャリアノート)」の活用方法と小中高間の連携</li> </ul>						
	<b>改 善 策</b>						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○富良野市キャリア教育推進会議の開催により、学校と事業所との連携を構築し、キャリア教育の推進と充実を図る。</li> <li>○「マイノート(キャリアノート)」の効果的な活用など、児童生徒の自己有用感の醸成を図るとともに、小中連携・中高連携について検討を進める。</li> </ul>						

評価項目	食育	担当課	学校教育課				
事務事業名	食育推進事業						
事業の目的・概要	子どもたちに食の楽しさ・大切さを伝えるために、家庭だけでなく保育所・幼稚園・学校など地域の関係者が連携しながら、食育の重要性について共通の認識を持ち、子どもたちの健やかな心と身体を育んでいくことを目的とし、「子どもたちのための食育ガイドライン」を基に食育推進を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成20年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			15	—	—	—	—
前年度の課題	○各学校の「食育の年間指導計画」と連動し、学力や体力・運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証及び評価と見直しに取り組む必要がある。						
当該年度の目標	○養護教諭と栄養教諭が連携し、「食育」に対する取り組みを促進する。						
事業の実施状況	○平成20年3月に策定した「子どもたちのための食育ガイドライン」をもとに概略版を作成し、幼稚園、保育所、学校で配布。 ○栄養教諭(2名)の配置。 配置校～富良野小学校、富良野西中学校 ○栄養教諭による食育指導と啓発活動。 ○市ホームページを通じて栄養教諭の活動を周知し、食育の重要性・取り組みを紹介。						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	B	B	
	効果度	A	A	A	A	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○各学校の食育の年間指導計画と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証及び評価と見直しに取り組む必要がある。						
	改 善 策						
	○健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携し「食育」を通じた健康管理を行う。 ○栄養教諭の増員に向け、全道市長会等を通じて強く要請していく。 ○学校給食の「食べ残しゼロ運動」や「早寝、早起き、朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動の促進を継続実施する。 ○アンケート調査等を実施しながら、「子どもたちの食育ガイドライン」の改訂作業の実施。						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	情報教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	ICT利活用事業						
事業の目的・概要	ICTの利活用により、児童生徒の「関心、意欲、態度」という観点で効果があり、児童生徒の学習内容への理解向上を図ることを目的とする。	事業年度	開始	終了			
			平成21年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
—	4,284		3,112	920	2,873		
前年度の課題	<p>○各学校及び市教研情報班において、引き続き教材研究や研修を促す必要がある。</p> <p>○情報セキュリティの確立に向けて、教職員の意識改革が必要。</p>						
当該年度の目標	<p>○ICTを活用した授業研究及び授業公開の推進と児童生徒の学習内容への理解向上を図る。</p> <p>○タブレット端末を利用した特色ある授業づくり。</p> <p>○Ipadの老朽化により、一定数の更新を行う。</p> <p>○僻地校へ光回線導入による授業改善</p>						
事業の実施状況	<p>○ICTを活用し、児童生徒の学習内容の理解向上を図る。</p> <p>○校内研修等によるICT活用方法の理解及び実践。</p> <p>○タブレット端末の整備（教育用コンピューターの更新）</p> <p>・H30 富良野東中学校 46台、富良野西中学校 44台</p> <p>○Ipadの更新</p> <p>・H30 小学校 38台 中学校 8台</p>						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	<b>今 後 の 課 題</b>						
	<p>○各学校及び市教研情報班において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。</p> <p>○情報セキュリティの確立に向けて、教職員の意識改革が必要。</p>						
<b>改 善 策</b>							
<p>○学校における情報セキュリティの確立に向け、情報提供を通じて教職員の意識改革を図る。</p> <p>○端末等デジタル情報機器の計画的整備を図る。</p> <p>○新学習指導要領で扱う「プログラミング教育」についての情報収集を図る。</p> <p>○未更新のIpadの更新を図る。</p>							

評価項目	国際理解教育					担当課	学校教育課				
事務事業名	外国語指導助手招致事業										
事業の目的・概要	英語に慣れ親しみ日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために、外国語指導助手を小中学校に派遣し、英語力向上を図る。	事業年度	開始		終了						
			平成7年度		継続						
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30				
14,441	14,108		14,562	14,517	20,103						
前年度の課題	<p>○平成32年度からの新学習指導要領では、3・4年生から外国語活動、5・6年生は教科化となることから、ALTの人数や配置、活用方法の検討が必要。さらに、小学校教諭の英語力も求められる。</p> <p>○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みとさらなる連携が必要。</p> <p>○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。</p> <p>○小学校教員の英語力・指導力の向上が必要。</p>										
当該年度の目標	<p>○児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養うとともに、外国の文化や生活習慣等を学びながら、英語力の向上を図る。</p> <p>○新学習指導要領の先行実施に向け外国語指導力の向上を図る。</p>										
事業の実施状況	<p>○外国語指導助手を4名(JETプログラム3名、独自採用1名)、小学校外国語活動等アドバイザー1名の計5名を配置し、外国語活動や英語教育、総合的な学習時間等に向けて市内小学校及び中学校に派遣している。</p> <p>○外国語活動推進委員会を設置し、小中学校教諭、担当教諭と外国語指導助手との連携を図るとともに、「英会話サロン」の開催により教員のスキルアップを図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話サロン 15回開催</li> </ul> <p>○「英語が話せるふらのっ子」の推進に向けた取組みを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における朝の英語活動を実施</li> <li>・放課後こども教室や児童館での行事に参加し、英語に触れる機会の提供</li> <li>・イングリッシュキャンプの実施・・・平成31年1月10日～11日(大雪青少年交流の家)</li> <li>・社会科副読本の活用・・・英語版ムービー「ふらの」</li> <li>・富良野を紹介する教材の作成</li> <li>・スクールバス乗車時を活用した英語活動・・・英語の歌のCDを作成し車内に放送</li> </ul>										
評価						達成度・効果度の検証					
	達成度	A	A	A	A	A	<p>○外国語活動推進委員会において、推進体制や指導形態について担任教諭とALTとの協議を進め、小中連携による体制が整備された。</p> <p>○「イングリッシュキャンプ」等、英語に触れる機会を増やすことで、英語に対する学習意欲向上につながってきている。</p>				
	効果度	A	A	A	A	A					
今後の取組み	今後の課題										
	<p>○平成30年度より先行実施している外国語活動及び外国語の教科化に向けた、各校と連携した指導体制の構築</p> <p>○小学校教員の英語力・指導力の更なる向上</p> <p>○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携</p> <p>○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実</p>										
	改善策										
<p>○小学校教諭の研修、英会話サロンなどを継続して開催する。</p> <p>○小学校において外国語とふれ合う機会を増やすため、「イングリッシュキャンプ」など気軽に英語と係わる環境づくりを行う。</p> <p>○「英語が話せるふらのっ子」をめざす観点から、ALTの独自採用を継続するとともに国際自治体協会とも連携しALT人材の充実を図る。</p>											

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	健康診断事業	担当課	学校教育課				
事務事業名	児童生徒、教職員健康診断実施事業						
事業の目的・概要	健康診断事業の円滑な実施によって、児童生徒、教職員の健康増進を図る。 ○児童生徒の健康診断＝毎学年定期に児童生徒の健康診断を行わなければならない。 (学校保健安全法第13条第1項) ○教職員健康診断＝学校の設置者は毎学年定期に職員の健康診断を行わなければならない。 (同法第15条第1項) ○就学時健康診断＝翌学年から就学させるべき者の健康診断を行わなければならない。 (同法第11条)	事業年度	開 始		終 了		
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
前年度の課題	○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○教職員健康診断の受診率100%達成						
当該年度の目標	○児童生徒の健康診断の完全実施 ○教職員健康診断の受診率100%達成						
事業の実施状況	○児童生徒の健康診断 ・学校保健安全法第13条第1項に基づき実施。 ○教職員健康診断 ・同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ・平成30年度受診状況 対象者180名中 173名受診 (受診率96.1%) ・年2回の健診受診案内通知、未受診者に個別に呼びかけ実施						
	○就学時健康診断 ・同法第11条に基づき実施 ・平成30年度 就学時健診受診案内者 176名 ・何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当児童及び保護者への相談・支援を実施している。						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証 ○児童生徒の各種検診の実施により疾病の予防と早期発見につながっている。 ○今年度の教職員受診率は96.1%、健康管理への意識向上のために受診の呼びかけが必要である。 今後、長期休暇前に受診の案内を行う等で対応をする予定。
	達成度	B	A	A	A	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題 ○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○教職員健康診断の受診率100%達成						
	改 善 策 ○児童生徒及び保護者に対して、保健だよりの発行を通じ健康管理の意識向上を促す。 ○未受検者に対して、管理職より個別に受診の呼びかけを行う。長期休暇の前に受診案内を行う等で対応する予定。						

評価項目	小中学校歯科衛生	担当課	学校教育課				
事務事業名	フッ化物洗口事業						
事業の目的・概要	北海道は、全国に比べて、12歳児におけるむし歯が多いことから「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことに伴い、北海道教育委員会としても幼児・児童生徒の歯・口腔の健康づくり推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導入を支援している。さらに富良野市健康増進計画（第2次）においても歯科健康対策の推進としてフッ化物洗口実施による12歳児1人平均むし歯1.0歯未満が目指されたことから、事業実施を行う。	事業年度	開始	終了			
			平成25年度				
事業費(決算) (単位:千円)			H26	H27	H28	H29	H30
			240	156	227	198	212
前年度の課題	○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口だけではなく、歯磨きの習慣を定着させることが必要。						
当該年度の目標	○フッ化物洗口にあたって、再度各学校へ対応とフッ化物洗口に対する正しい情報の提供を行い、よりよい実施ができるように取り組む予定。						
事業の実施状況	○富良野市においては、全小中学校において希望者のみフッ化物洗口を実施。フッ化物洗口を希望しない場合は、水道水によるぶくぶくうがいを実施。 ○小学生は対象者1,034名に対し実施者数946名・実施率91.4%、中学生は対象者535名に対し実施者数465名・実施率86.9%である。						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証 ○関係機関が一丸となった取組みを進めており、高い実施率を上げている。 ○事業効果については、継続して実施していく中で検証を行う事になるが、実施によるむし歯予防には有効と考える。北海道教育委員会が作成した「フッ化物洗口の導入手引き」では、フッ化物洗口を実施すと平均で40~80%のむし歯が減るとの紹介があり、フッ化物洗口で得られる効果は長期的に見ることが必要である。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題 ○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口だけではなく、歯磨きの習慣を定着させることが必要。						
	改善策 ○養護教諭を中心に、児童生徒の歯・口腔の健康意識を向上させるための生活習慣を身に付けさせる指導を行う。						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	高校教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	高校教育の推進						
事業の目的・概要	市内中学校と地区高校の相互連携により中高の教育振興と地元の魅力ある高校づくりを図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継 続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
—	—		—	—	—		
前年度の課題	○中学生が選択するポイントを捉え、充実した授業交流や説明会の実施。 ○高大接続の入試改革の情報把握と魅力ある高校づくりのための中高連携。						
当該年度の目標	○中高の情報を共有し、今日的な教育課題の解決を図る。 ○富良野地区の望ましい高校教育づくりを推進する。 ○地域や保護者の教育ニーズに対応した高校教育の充実を図る。						
事業の実施状況	○富良野市中高等学校経営連絡協議会 市内の中学校及び富良野地区の高等学校が連携し、富良野地区の未来を支えるべき優秀な人材を地元の高校で育て、富良野地区の基幹産業を担う人材育成をめざし協議。 6月20日、11月28日開催  ○学力向上プロジェクトチーム ・専門部会議の開催 ・富良野高校及び富良野緑峰高校合同説明会（6月28日） ・各中学校での学校説明会、授業交流 ・中学校進路指導担当者向け学校説明会（11月2日） ・体験入学 [ 富良野高 10月5日 259名参加（H29～300名） [ 富良野緑峰高 8月28日 180名参加（H29～226名）						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証 ○市教委主催による2校合同説明会には、南富良野高校が特別参加し、上富良野高校も説明会に資料を提供するなど、富良野地域としての連携が図られた。  ○中高間の授業交流で、お互いの課題や生徒の様子を確認することができた。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後組の取り組み	<b>今 後 の 課 題</b>						
	○中学生の状況を踏まえ、各学校の特色を活かした授業交流や学校説明会の実施 ○学力向上に関わる中高それぞれの指導内容や課題の情報交流						
今後組の取り組み	<b>改 善 策</b>						
	○授業交流・情報交流の継続により、中高各段階での学力の現状把握と、各段階で必要な基礎学力などの洗い出しを進め、中高が連携して学力向上を図る。 ○授業交流を継続実施するとともに、他の教科の協力についての検討。 ○今後も中卒者は減少傾向にあり、H32年度には富良野緑峰高校で1間口減となることから、地域の実態を踏まえた高校の在り方の検討。						

評価項目	コミュニケーション教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	学校教育コミュニケーション教育推進事業						
事業の目的・概要	演劇的手法等を用いたワークショップを通じて、児童生徒に豊かな想像力や思考能力とともに他者理解、話す・聞くの基本など、「気づき」「きっかけ」を得て、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成28年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			—	—	1,313	1,264	1,296
前年度の課題	<p>○事業の実施について、児童生徒のほか、保護者の参加についても検討する。</p> <p>○事業継続により小規模校では、同一児童生徒が繰り返すことになり、様々な導入方法が必要。</p>						
当該年度の目標	○全小中学校において演劇的手法を用いたワークショップを実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。						
事業の実施状況	○ワークショップ等実施状況 実施校 全13校(延べ18回) 参加児童生徒数 714人						
	○実施内容 ・表現プログラム(シアターゲーム) ・コミュニケーション・プログラム ・ボディパーカッション ・レクリエーション・プログラム等 から学校と協議し、ニーズに合わせた内容で実施。						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	A	A	A	
効果度	—	—	A	A	A		
今後取り組み	<b>今 後 の 課 題</b>						
	<p>○事業の実施について、児童生徒のほか、保護者の参加についても検討する。</p> <p>○事業継続により小規模校では、同一児童生徒が繰り返すことになり、様々な導入方法が必要。</p>						
今後取り組み	<b>改 善 策</b>						
	<p>○コミュニケーション能力の向上については、各学校とも理解されており、今後も様々なプログラムの継続実施により児童生徒の関心を高める取組が必要。</p> <p>○早期に受託者との日程調整を行い、全校においてコミュニケーション教育を実施する。</p>						

Ⅲ 平成30年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	芸術文化	担当課	学校教育課				
事務事業名	子ども芸術鑑賞教室事業						
事業の目的・概要	児童生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を提供し、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。	事業年度	開始	終了			
			昭和48年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			1,400	1,400	1,400	1,500	1,500
前年度の課題	<p>○入場料を徴収(300円)しているため、事業効果の高い作品を求められるが、小学1年生～中学3年生までを対象とし、本予算では一定レベルの作品しか呼ぶことができない。特に小学校向けの作品が中心となっている。</p> <p>○平成32年度からの新学習指導要領の完全実施に向け、児童生徒及び学校負担が増大することが見込まれるため、市の行事的な活動の精選が必要となっている。</p>						
当該年度の目標	○児童生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を設け、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。						
事業の実施状況	○舞台芸術鑑賞(小・中学生)						
	事業名	らんま先生「eco実験パフォーマンス」1公演90分					
	日程	8月27日(月)・28日(火)					
	会場	富良野文化会館					
	内容	<p>成長期にある子ども達に優れた芸術を鑑賞する機会を提供し、豊かな創造性、情操の涵養に資するとともに、芸術文化活動の充実と向上及び芸術文化の振興、更には子どもの健全育成を図った。</p> <p>平成30年度は子ども参加型の空気砲の体験を実施し、子どもたちも積極的に参加したことで、科学・実験に興味を持つことにも繋がったとの意見があった。</p>					
	入場料	300円					
	入場者	8/27	587名	市内小中学校児童生徒、教諭			
		8/28	616名				
	計	1,203名					
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B		B	B	
	効果度	B	B		B	B	※平成28年度は、市長部局所管のため、教育委員会としては評価をしていない。
今後組の取組み	<b>今 後 の 課 題</b>						
	○平成32年度からの新学習指導要領の完全実施に向け、児童生徒及び学校負担が増大することが見込まれることから、事業精選が必要となる。						
今後組の取組み	<b>改 善 策</b>						
	○平成31年度より事業を廃止する。						

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課																									
事務事業名	家庭教育支援事業																											
事業の目的・概要	幼児・児童生徒の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的な生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。	事業年度	開始	終了																								
			平成9年度	継続																								
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30																					
			212	278	255	279	281																					
前年度の課題	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○望ましい電子メディアとのかかわり方や規則正しい生活習慣を学校、家庭、PTAで連携して今後も取り組んでいく必要がある。																											
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実																											
事業の実施状況	○家庭教育セミナー																											
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="5">市街地区</td> <td>6/5(火)</td> <td>&lt;子どもたちに学ぶ家庭教育講座2018&gt; 幼児期の心理と特徴</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>8/3(金)</td> <td>無限の可能性を持つ子ども達</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>9/12(水)</td> <td>大切な思考力を育てよう</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>10/10(水)</td> <td>大切な親子のコミュニケーション</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>1/23(水)</td> <td>プチ☆子育てコーチング講座</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>布部地区</td> <td>10/28(日)</td> <td>絵から読み取る子どもの心</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>東山地区</td> <td>12/12(火)</td> <td>樹海地区ハートでトーク ～心に寄り添うアンガーマネジメント～</td> <td>45人</td> </tr> </table>	市街地区	6/5(火)	<子どもたちに学ぶ家庭教育講座2018> 幼児期の心理と特徴	4人	8/3(金)	無限の可能性を持つ子ども達	5人	9/12(水)	大切な思考力を育てよう	3人	10/10(水)	大切な親子のコミュニケーション	4人	1/23(水)	プチ☆子育てコーチング講座	11人	布部地区	10/28(日)	絵から読み取る子どもの心	24人	東山地区	12/12(火)	樹海地区ハートでトーク ～心に寄り添うアンガーマネジメント～	45人			
市街地区	6/5(火)		<子どもたちに学ぶ家庭教育講座2018> 幼児期の心理と特徴	4人																								
	8/3(金)		無限の可能性を持つ子ども達	5人																								
	9/12(水)		大切な思考力を育てよう	3人																								
	10/10(水)		大切な親子のコミュニケーション	4人																								
	1/23(水)	プチ☆子育てコーチング講座	11人																									
布部地区	10/28(日)	絵から読み取る子どもの心	24人																									
東山地区	12/12(火)	樹海地区ハートでトーク ～心に寄り添うアンガーマネジメント～	45人																									
○家庭教育講演会(会場:富良野文化会館)																												
<table border="1"> <tr> <td>12/1(土)</td> <td>ネット社会に生きる子ども達への対応 ～大人のできること すべきこと～</td> <td>87人</td> </tr> </table>						12/1(土)	ネット社会に生きる子ども達への対応 ～大人のできること すべきこと～	87人																				
12/1(土)	ネット社会に生きる子ども達への対応 ～大人のできること すべきこと～	87人																										
○家庭教育ハンドブック(乳幼児編、小学低・中学年編、小学高学年・中学生編)の作成、配布																												
○ケータイ、インターネットトラブル防止に関する小冊子の作成、配布																												
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証																					
	達成度	B	B	B	B	B		○家庭・地域の教育力向上につながっており、子育てに関する知識が増えるとともに、家庭教育の重要性について学ぶ機会となっている。																				
	効果度	A	A	A	A	A																						
今後の取り組み	今 後 の 課 題																											
	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○望ましい電子メディアとのかかわり方や規則正しい生活習慣を学校、家庭、PTAで連携して今後も取り組んでいく必要がある																											
	改 善 策																											
○引き続き、多くの親が参加する機会を活用した学習機会の提供や情報提供に努める。 ○各種事業等を活用した父と子のふれあい交流を推進し、家庭教育への関心と参加を推進する。 ○家庭教育ハンドブック等の有効利用をはじめ、各関係機関・団体と連携し家庭教育に関する情報発信に努める。 ○市PTA連合会と連携した家庭教育向上に向けた取り組み。																												

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課																												
事務事業名	親と子のふれあい事業																														
事業の目的・概要	家庭や地域の人々との共感的な人間関係を大切にして、心のつながりを深める活動を通して、子どもの心身の発達を促す。	事業年度	開 始		終 了																										
			昭和52年度		継続																										
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30																								
			市民講座事業・図書館事業に掲載																												
前年度の課題	○公民館事業、図書館事業として取組んでいるが、各施設間の連携を図りながら親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容を充実し、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。																														
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実 ○親子で楽しみながら、豊かな心を育てる共同体験機会の充実 ○地域の社会資源を活用した土曜日の教育支援体制の構築																														
事業の実施状況	○市民講座【家庭教育・親子を対象にした講座】																														
	<table border="1"> <tr><td>はじめてのよみきかせ</td><td>5/16</td><td>32人</td></tr> <tr><td>やってみよう！POP講座</td><td>8/2</td><td>25人</td></tr> <tr><td>プチ☆子育てコーチング講座</td><td>1/23</td><td>11人</td></tr> <tr><td>カッコいいお父さんのキャンプ講座</td><td>6/16</td><td>6人</td></tr> <tr><td>新米パパの育児講座</td><td>6/30</td><td>12人</td></tr> <tr><td>アートを楽しもう！</td><td>11/3</td><td>22人</td></tr> <tr><td>自然に親しむ集い</td><td>7/27・3/24</td><td>延42人</td></tr> <tr><td>標本づくり</td><td>7/21・8/4</td><td>延21人</td></tr> <tr><td>外来種オオハングウソウを減らそう</td><td>6/9</td><td>8人</td></tr> </table>		はじめてのよみきかせ	5/16	32人	やってみよう！POP講座	8/2	25人	プチ☆子育てコーチング講座	1/23	11人	カッコいいお父さんのキャンプ講座	6/16	6人	新米パパの育児講座	6/30	12人	アートを楽しもう！	11/3	22人	自然に親しむ集い	7/27・3/24	延42人	標本づくり	7/21・8/4	延21人	外来種オオハングウソウを減らそう	6/9	8人		
はじめてのよみきかせ	5/16	32人																													
やってみよう！POP講座	8/2	25人																													
プチ☆子育てコーチング講座	1/23	11人																													
カッコいいお父さんのキャンプ講座	6/16	6人																													
新米パパの育児講座	6/30	12人																													
アートを楽しもう！	11/3	22人																													
自然に親しむ集い	7/27・3/24	延42人																													
標本づくり	7/21・8/4	延21人																													
外来種オオハングウソウを減らそう	6/9	8人																													
事業の実施状況	○読み聞かせ（図書館）																														
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんぐりのおはなし会 43回 延 853人</li> <li>・土曜日のおはなし会 11回 延 292人</li> <li>・えいごのおはなし会 10回 延 267人</li> </ul> ○子どもの図書館まつり 5/9～12 来館者 延1,591人																														
評価	達成度					達成度・効果度の検証																									
	H26	H27	H28	H29	H30																										
評価	達成度	B	B	B	B	○親と子がふれあう機会を通して、家庭教育の重要性を学ぶ場となっている。 ○親子のための講座開設時期が偏るとともに、子育てに関わる父親への参加促進不足																									
	効果度	A	B	A	A																										
今後の取り組み	今 後 の 課 題																														
	公民館・図書館が連携を図り、親子のふれあいを深め子どもの健やかな成長を育む事業内容を充実させ、多くの親子が気軽に参加できる機会の提供を継続していく必要である。																														
今後の取り組み	改 善 策																														
	事業内容の検討を行い、関係する部署や関係する機関・団体、家庭教育サポート企業などと連携し、より多くの親子が参加できる機会を提供しながら事業展開を図る。																														

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課																																
事務事業名	子ども未来づくり事業（少年の主張大会&子ども未来づくりフォーラム）																																		
事業の目的・概要	子どもの立場から「まちづくり」に対する自由な発想や意見を出し合い、自主的に社会参加するとともに市政に対する関心を高め、富良野市の未来を担う青少年を育成することを目的とする。	事業年度	開始	終了																															
			平成19年度	継続																															
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30																												
			29	34	32	31	24																												
前年度の課題	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開の継続。																																		
当該年度の目標	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開を図る。 ○自分やグループ内での考え、表現する力の育成と子ども一人ひとりの多様な考えを引き出す発表の場を提供する。																																		
事業の実施状況	○少年の主張大会 ・青少年を取巻く社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案等 ・家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友達との関わりなど ・TVや新聞等で報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言等 5/23(水)   6校(14人)   西4・東4・山部2・樹海2・麓郷2・布部1 聴衆者/約90人（ことぶき大学生、来賓、学校関係者及び保護者等）																																		
	○こども未来づくりフォーラム ・学校の授業や生徒会活動等で取り組まれている特色ある取り組みや地域課題解決に向け自分達にできること、市民が取り組むべきことなどについて発表。 ・11/28(水)開催 会場：文化会館大ホール <table border="1"> <tr><td>樹海小5.6年</td><td>輝け！樹海</td><td>11人</td></tr> <tr><td>布部小全児童</td><td>そうだ！「北海へそ祭り」を調べよう！</td><td>10人</td></tr> <tr><td>鳥沼小3.4年</td><td>おいしく食べよう</td><td>13人</td></tr> <tr><td>山部小5.6年</td><td>みんなの知らない山部の世界</td><td>9人</td></tr> <tr><td>富良野小6年生</td><td>富良野の未来について</td><td>15人</td></tr> <tr><td>布礼別小5.6年</td><td>布礼別のことを伝え隊～観光トイレ清掃について伝え隊～</td><td>4人</td></tr> <tr><td>麓郷小5.6年</td><td>10年後の理想と麓郷</td><td>6人</td></tr> <tr><td>扇山小6年</td><td>見直そう！富良野のまち</td><td>5人</td></tr> <tr><td>東小5年</td><td>未来につなごう 身近な公園</td><td>54人</td></tr> <tr><td>9校</td><td></td><td>127人</td></tr> </table> 聴衆者/約270人（ことぶき大学生、来賓、学校関係者及び保護者等）						樹海小5.6年	輝け！樹海	11人	布部小全児童	そうだ！「北海へそ祭り」を調べよう！	10人	鳥沼小3.4年	おいしく食べよう	13人	山部小5.6年	みんなの知らない山部の世界	9人	富良野小6年生	富良野の未来について	15人	布礼別小5.6年	布礼別のことを伝え隊～観光トイレ清掃について伝え隊～	4人	麓郷小5.6年	10年後の理想と麓郷	6人	扇山小6年	見直そう！富良野のまち	5人	東小5年	未来につなごう 身近な公園	54人	9校	
樹海小5.6年	輝け！樹海	11人																																	
布部小全児童	そうだ！「北海へそ祭り」を調べよう！	10人																																	
鳥沼小3.4年	おいしく食べよう	13人																																	
山部小5.6年	みんなの知らない山部の世界	9人																																	
富良野小6年生	富良野の未来について	15人																																	
布礼別小5.6年	布礼別のことを伝え隊～観光トイレ清掃について伝え隊～	4人																																	
麓郷小5.6年	10年後の理想と麓郷	6人																																	
扇山小6年	見直そう！富良野のまち	5人																																	
東小5年	未来につなごう 身近な公園	54人																																	
9校		127人																																	
評価						達成度・効果度の検証 ○各学校における特色ある取組や学習内容、富良野市のまちづくりについて、子どもたちが自らの考えやアイデア等を発表し、表現する場となっている。 ○パワーポイントなどICTの活用により、子どもたちのプレゼンテーション力向上が見られる。 ○観覧者参加型の発表もあり、各校の工夫が見られた。																													
	達成度	A	A	A	A		A																												
	効果度	A	A	A	A	A																													
今後の取り組み	<b>今 後 の 課 後 題</b>																																		
	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開の継続。 ○新たにラジオふらのを通し、子ども達のまちづくりに対する主張発表等を広く市民に発信																																		
	<b>改 善 策</b>																																		
	○学校との連携を図り、計画的な事業推進に努める。																																		

Ⅲ 平成30年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課																							
事務事業名	ふらのまちづくり未来ラボ推進事業																									
事業の目的・概要	地域の各分野で活躍している大人と好奇心を持った子ども達が、ワークショップ学習や体験活動を通して、子ども達の情操教育と郷土愛を育み、次代を担う子ども達の人材育成を図る。	事業年度	開始		終了																					
			平成28年度																							
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30																			
			—	—	1,577	1,722	1,795																			
前年度の課題	○今後も民間のノウハウやアイデアを活用しながら、行政と民間の役割を明確にし、協働で推進していく必要がある。																									
当該年度の目標	○地域の魅力の発見と自らが参画できる地域社会づくりの実践を通して、富良野で豊かな郷土愛を持つ人材を育てる。																									
事業の実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ワークショップ名 (ワーキング含む)</th> <th>実施回数</th> <th>参加延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はたらく人になって2018 ~ICTエンジニア~</td> <td>18回</td> <td>236人</td> </tr> <tr> <td>サウンズ&amp;ムービーズ ~ふらのを伝える~</td> <td>3回</td> <td>80人</td> </tr> <tr> <td>麻・まち・アート ~白い服プロジェクト~</td> <td>28回</td> <td>386人</td> </tr> <tr> <td>見て・作って・食べて ~美味しいを探そう~</td> <td>2回</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td>まぜて・まなぶ特別篇 ~大学院生ワークショップ~</td> <td>2回</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td>計 5WS</td> <td>53回</td> <td>791人</td> </tr> </tbody> </table>		ワークショップ名 (ワーキング含む)	実施回数	参加延人数	はたらく人になって2018 ~ICTエンジニア~	18回	236人	サウンズ&ムービーズ ~ふらのを伝える~	3回	80人	麻・まち・アート ~白い服プロジェクト~	28回	386人	見て・作って・食べて ~美味しいを探そう~	2回	48人	まぜて・まなぶ特別篇 ~大学院生ワークショップ~	2回	41人	計 5WS	53回	791人			
	ワークショップ名 (ワーキング含む)	実施回数	参加延人数																							
はたらく人になって2018 ~ICTエンジニア~	18回	236人																								
サウンズ&ムービーズ ~ふらのを伝える~	3回	80人																								
麻・まち・アート ~白い服プロジェクト~	28回	386人																								
見て・作って・食べて ~美味しいを探そう~	2回	48人																								
まぜて・まなぶ特別篇 ~大学院生ワークショップ~	2回	41人																								
計 5WS	53回	791人																								
委託業務名 ふらのまちづくり未来ラボ推進事業 実施期間 平成30年4月1日~平成31年3月31日 受託者 一社) 富良野デザイン会議暮らしステーション																										
評価						達成度・効果度の検証 ○家庭、学校、職場の関係を越えた多くの出会いが期待される。 ○市民の新たな富良野コミュニティが創出が期待される。																				
		H26	H27	H28	H29		H30																			
評価	達成度	—	—	B	B	B																				
	効果度	—	—	A	A	A																				
今後の取り組み	<b>今 後 の 課 題</b>																									
	○今後も民間のノウハウやアイデアを活用しながら、行政と民間の役割を明確にし、協働で推進していく必要がある。 ○小中高の連携をより深めた事業展開を図っていく必要がある。 ○東大院生サークル「ENTACK」との連携に努めていく必要がある。																									
今後の取り組み	<b>改 善 策</b>																									
	○行政と民間の連携協力を努めていく。																									

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課					
事務事業名	子ども会育成事業							
事業の目的・概要	異年齢集団である子ども会活動への参加奨励を図り、団体活動の基礎的知識や技術を学び、子ども会活動の活性化を図る。	事業年度	開始	終了				
			昭和38年度	継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30	
927	955		948	800	800			
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの減少等により、子ども会や育成連絡協議会への加入が困難な地区もあり、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。</li> <li>○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。</li> <li>○アウトドア体験をとおしたリーダー研修会は年々、参加する子ども達が増えており、四季折々の自然体験をとおした取組みを継続する必要がある。</li> </ul>							
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の教育資源を活かした様々な学習機会の充実</li> <li>○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実</li> <li>○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加促進</li> <li>○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備</li> </ul>							
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○富良野市子ども会育成連絡協議会 ・加盟単位数 15団体 ・会員数 772人</li> <li>○子ども会事業</li> </ul>							
	8/9～11	リーダー研修会【前期】	79人	小中57人・高9人・ボラ12人・育成員1人				
3/24～26	リーダー研修会【後期】	94人	小中73人・高9人・ボラ12人					
1/14	かるた大会	29人	7チーム20名					
随時	遊びの出前事業(随時)	7回	地区子ども会等へ派遣					
評価			H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証 <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然に親しみ異年齢集団での活動を通して、人と関わることの大切さや家族への感謝の気持ちを育む機会が図られている。</li> <li>○友達と課題解決に向け達成感を体験することにより、自己肯定感を高めていくことができている。</li> </ul>
	達成度		B	B	B	B	B	
	効果度		B	A	A	A	A	
今後の取組み	今後の課題							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの減少等により、子ども会や育成連絡協議会への加入が困難な地区もあり、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。</li> <li>○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。</li> <li>○アウトドア体験をとおしたリーダー研修会は年々、参加する子ども達が増えており、四季折々の自然体験をとおした取組みを継続する必要がある。</li> </ul>							
	改善策							
<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども会加入の働きかけを継続するとともに、子ども会未加入の子ども達も事業に参加し、異年齢集団を通じた体験により子ども会活動の良さを体験できる多様な活動内容の充実を図る。</li> <li>○時代に対応する組織運営について助言を行うとともに、研修等を通じた育成員の養成を図る。</li> <li>○リーダー研修会は、体験活動や自然体験を取り入れた多彩なプログラムを提供する。</li> </ul>								

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年表彰	担当課	社会教育課			
事務事業名	青少年表彰事業					
事業の目的・概要	青少年（個人、団体）を対象に、青少年活動、社会活動及び家庭生活等において他の模範となる者を表彰する。	事業年度	開 始		終 了	
			平成19年度		継 続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29
		39	26	41	40	38
前年度の課題	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。 ○青少年団体をリードする人材育成を図る必要がある。					
当該年度の目標	○ふるさとの意識を高める各種リーダーの養成					
事業の実施状況	○富良野市青少年表彰式 ・ 11月23日開催 文化会館大会議室 ・ 被表彰者 1個人1団体 ・ 表彰規則 【個人】 概ね30歳までの青少年であって、次の各号に掲げる活動を3年以上実践している者 【団体】 文化、教養、体育又は奉仕活動を目的として概ね30歳までの青少年で組織されている団体で、堅実な活動を常時又は定期的に3年以上継続して行い、それぞれの活動の成果が著しく他の青少年団体の模範となるもの					
評価	達成度・効果度の検証					
		H26	H27	H28	H28	H30
	達成度	B	B	B	B	B
						○活動が顕著な青少年（個人・団体）を表彰し、他の青少年の模範や励みとなっている。 ○次代を担うまちの人材育成に繋がっている。
	効果度	B	B	B	A	A
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。 ○青少年団体をリードする人材育成を図る必要がある。					
	改 善 策					
	○様々な機会や広報を通して、青少年表彰制度について広く市民に周知する。 ○各関係機関・団体及び町内会や市民に対して広く該当者の推薦を募る。					

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年補導センター運営事業						
事業の目的・概要	青少年が心身ともに健康で調和のとれた発達ができるよう、市民や関係機関・団体との連携により、青少年の健全育成を主眼とした非行の未然防止に努める。  ◇補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体の推薦により教育委員会が委嘱	事業年度	開始	終了			
			昭和50年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
		149	150	157	160	161	
前年度の課題	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月3回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署との連携。						
当該年度の目標	○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備						
事業の実施状況	○補導員数 35人 委嘱 ○街頭補導(富良野地区) ・富良野地区25回、山部地区1回(山部盆踊り) 延従事者44人 結果:補導なし。呼びかけ60人 ○補導員会議(兼研修会) ・6月5日開催 27名出席 文化会館 ○広域補導(旭川地区広域補導連絡協議会) ・合同補導…①北海へそ祭り祭典補導 7人(うち富良野市4人) ②旭川市街巡回補導 4人(うち富良野市1人) ・列車添乗補導…3回実施(富良野～旭川間)延13人(うち富良野市3人) ・旭川地区広域補導連絡協議会研修会 4/12 ・旭川地区広域補導連絡協議会総会 7/20 ・旭川地区広域補導連絡協議会実務担当者会議 -						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	A	A	A	A	
今後の取り組み	<b>今 後 の 課 後 題</b>						
	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月3回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署との連携。						
今後の取り組み	<b>改 善 策</b>						
	○学校、家庭、関係機関団体、施設管理者等とのネットワーク化を推進し、情報交換や連携を密にしながら青少年の健全育成を推進する。						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	放課後子ども教室推進事業						
事業の目的・概要	放課後の子ども達の安全、安心な居場所を設け、子ども達に文化・スポーツ活動等の体験を通じて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。  ○平成20年度 山部小学校で新規開設 ○平成22年度 樹海小学校で新規開設 ○平成23年度 布礼別小学校で新規開設 ○平成25年度 布部小学校で新規開設 ○平成28年度 烏沼小学校で新規開設	事業年度	開始	終了			
			平成20年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			5,567	5,782	6,455	7,087	7,408
前年度の課題	○コーディネーター、サポーター間の研修・共有の場 ○未開設地区(麓郷小学校区)の継続協議						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進						
事業の実施状況	○山部地区放課後子ども教室 ・登録児童数 34名 (H29年度/37名) ・開催日数 222日 (H29年度/224日) ・延 4,868名出席 (H29年度/5,410名) ・教育活動サポーター登録 11名  ○布部地区放課後子ども教室 ・登録児童数 10名 (H29年度/10名) ・開催日数 176日 (H29年度/166日) ・延 1,543名出席 (H29年度/1,517名) ・教育活動サポーター登録 18名  ○布礼別地区放課後子ども教室 ・登録児童数 15名 (H29年度/13名) ・開催日数 68日 (H29年度/41日) ・延 918名出席 (H29年度/500名) ・教育活動サポーター登録 9名  ○烏沼地区放課後子ども教室 ・登録児童数 17名 (H29年度/11名) ・開催日数 201日 (H29年度/185日) ・延 2,479名出席 (H29年度/1,463名) ・教育活動サポーター登録 23名  ○東山地区放課後子ども教室 ・登録児童数 27名 (H29年度/28名) ・開催日数 176日 (H29年度/176日) ・延 3,250名出席 (H29年度/3,219名) ・教育活動サポーター登録 15名						
評価			H26	H27	H28	H29	H30
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
<b>達成度・効果度の検証</b>							
	○児童の安全、安心な居場所づくりと心豊かで健やかに育まれる環境づくりに効果をあげている。 ○各地区のコーディネーター、サポーター同士の意見交換や共有の場をつくり、資質向上を図ることができた。						
今後の取り組み	<b>今後の課題</b>						
	○コーディネーター、サポーター間の研修・共有の場の継続 ○地域の支援協力体制の醸成を少しずつ図っていく必要がある。						
	<b>改善策</b>						
	○保護者や地域の方が参画しやすい事業展開に努める。						

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課																																						
事務事業名	児童館・学童保育センター運営費																																								
事業の目的・概要	すべての児童生徒が放課後を安全・安心に過ごす居場所を提供し、学習や体験活動等を通し次代を担う子どもの健やかな成長と社会で子育てを支える地域社会を推進する。 ○北の峰児童館（北の峰学童保育センター） ○緑町児童センター（緑町学童保育センター） ○麻町児童センター（麻町学童保育センター） ○桂木児童センター（桂木学童保育センター） ○東部児童センター（東部学童保育センター）	事業年度	開始	終了																																					
			昭和43年度	継続																																					
事業の目的・概要	○北の峰児童館（北の峰学童保育センター） ○緑町児童センター（緑町学童保育センター） ○麻町児童センター（麻町学童保育センター） ○桂木児童センター（桂木学童保育センター） ○東部児童センター（東部学童保育センター）	事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30																																		
				30,753	29,763	33,936	32,435																																		
前年度の課題	○児童福祉法に基づく放課後児童支援員の確保																																								
当該年度の目標	○全ての児童生徒が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動ができる居場所作りに努める。 ○児童福祉法に基づく放課後児童支援員の確保及び人材育成																																								
事業の実施状況	○年間利用状況（自由来館＋登録児）																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>H30</th> <th>H29</th> <th>H28</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北の峰児童館</td> <td>7,157</td> <td>8,171</td> <td>8,020</td> <td>8,618</td> </tr> <tr> <td>緑町児童センター</td> <td>15,918</td> <td>15,078</td> <td>14,536</td> <td>13,516</td> </tr> <tr> <td>麻町児童センター</td> <td>7,218</td> <td>8,940</td> <td>8,252</td> <td>10,877</td> </tr> <tr> <td>桂木児童センター</td> <td>11,649</td> <td>14,348</td> <td>12,318</td> <td>13,676</td> </tr> <tr> <td>東部児童センター</td> <td>6,454</td> <td>6,797</td> <td>7,573</td> <td>8,421</td> </tr> <tr> <td>5館</td> <td>48,396</td> <td>53,334</td> <td>50,699</td> <td>55,108</td> </tr> </tbody> </table>							施設名	H30	H29	H28	H27	北の峰児童館	7,157	8,171	8,020	8,618	緑町児童センター	15,918	15,078	14,536	13,516	麻町児童センター	7,218	8,940	8,252	10,877	桂木児童センター	11,649	14,348	12,318	13,676	東部児童センター	6,454	6,797	7,573	8,421	5館	48,396	53,334	50,699
施設名	H30	H29	H28	H27																																					
北の峰児童館	7,157	8,171	8,020	8,618																																					
緑町児童センター	15,918	15,078	14,536	13,516																																					
麻町児童センター	7,218	8,940	8,252	10,877																																					
桂木児童センター	11,649	14,348	12,318	13,676																																					
東部児童センター	6,454	6,797	7,573	8,421																																					
5館	48,396	53,334	50,699	55,108																																					
事業の実施状況	○主な活動・季節的行事																																								
	◎情操:紙芝居、読書、セル画等 ◎体力:一輪車、跳び箱、縄跳び、竹馬等 ◎娯楽:かるた、オセロ、トランプ、伝承遊び等 ◎社会:挨拶、身だしなみ、清掃等 ◎季節的行事…母・父・敬老の日プレゼント作り、七夕祭り、夏休み工作等																																								
評価						達成度・効果度の検証																																			
	達成度	H26	H27	H28	H29	H30	○放課後、児童生徒の安全・安心な居場所と健全なあそび通し、情操豊かな成長につながっていると同時に、昼間、共働き等の家庭支援につながっている。 ○引き続き、保育士・社会福祉士・教諭等の資格を有する放課後児童支援員の育成及び人材確保																																		
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○地域の方と一体となった児童センター及び放課後児童クラブの運営に努めていく。 ○児童福祉法に基づく放課後児童支援員の育成																																								
	改 善 策 ○保護者や地域の方が参画しやすい事業展開に努める。																																								

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課					
事務事業名	学社融合推進事業							
事業の目的・概要	学校・家庭・地域社会の教育力を結びつけ、富良野市の教育の充実と活性化を目指す「学社融合」を積極的に推進し、ゆとりと潤いのある学習社会の実現を図るとともに、平成23年度より学校支援地域本部事業機能を取り込んで、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援していく。	事業年度	開始		終了			
			平成11年度 (学校支援は平成20年度～)		継続			
事業費(決算) (単位:千円)			H26	H27	H28	H29	H30	
			282	291	269	226	405	
前年度の課題	○地域学校協働本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。							
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備 ○学習活動を支援するための情報提供や指導、相談体制の整備							
事業の実施状況	<p>○富良野市学社融合推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進委員 23名委嘱(教頭会から推薦の幹事2名含む)</li> <li>・市内小中学校における実践事例 303事例(前年291)</li> <li>・推進委員会開催 (6/13)</li> </ul> <p>○学社融合研修会(講演会) 2/27開催 67人 会場:文化会館</p> <p>演題:地域の教育力を子どもたちに ～地域学校協働活動の在り方について～ 講師:札幌市立屯田小学校長 新保 元康 氏</p> <p>○学校支援ボランティアの登録数 287名(男性91名、女性196名)</p> <p>①家庭科補助9名 ②体育補助115名 ③読み聞かせ80名 ④農園手伝い8名 ⑤環境整備20名 ⑥自然科学・歴史4名 ⑦食育5名 ⑧パソコン3名 ⑨文学・文化7名 ⑩学校行事支援8名 ⑪登下校時等の安全指導28名 ⑫その他57名 ※希望分野が複数の登録者あり</p>							
評価			H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	A	
効果度	A	A	A	A	A	A		
今後組の	今 後 の 課 題							
	○地域学校協働本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。							
改 善 策	改 善 策							
	○活動内容の広報活動を行うとともに、学校との情報交換等を行いながら学校支援ボランティアの登録分野の一層の活用促進と地域の教育資源の整備充実を図り、地域の教育力の向上を目指す。							

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課														
事務事業名	青年活動活性化事業（青年塾）																
事業の目的・概要	<p>平成23年度に実施したアンケート調査結果（20～39歳対象）から、①出会い・交流の場 ②まちの活性化 ③ボランティア活動 ④休日・余暇活動に関して問題意識があり、同世代の交流を強く求めていることが明らかになった。</p> <p>このため、青年活動（集団づくり）の活性化を図るとともに、様々な学習の機会を通し、青年集団をリードする人材育成を図る。</p>	事業年度	開始	終了													
			平成24年度		平成30年度												
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30										
			137	196	202	180	10										
前年度の課題	<p>○さらなる塾生間の交流を進めるとともに、他団体等との交流や課題解決やスキルアップに向けた学習機会の提供が引き続き必要である。</p> <p>○地域に活動内容を広く周知していく必要がある。</p>																
当該年度の目標	<p>○青年の出会いと交流の場（ふらの青年塾）を引き続き開設し、自己実現を行うための課題解決に向けた学習・体験活動や広域的な交流を行う。</p> <p>○広報等を活用した活動内容の周知</p>																
事業の実施状況	○会員数																
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>会員数</td> <td>男</td> <td>女</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>H30.5現在</td> <td>11名</td> <td>7</td> <td>4</td> <td colspan="2">前年▲10</td> </tr> </table>							会員数	男	女			H30.5現在	11名	7	4	前年▲10
	会員数	男	女														
H30.5現在	11名	7	4	前年▲10													
事業の実施状況	○活動状況（H30）																
	<p>定例会・・・5/18、7/30</p> <p>5/18・・・会員減少もあり本年度の活動はせず、解散する方向で協議を進めるに至る。</p> <p>7/30・・・「青年塾解散」することで結論に至る</p>																
評価						達成度・効果度の検証											
		H26	H27	H28	H29	H30											
評価	達成度	B	B	B	B	-											
	効果度	B	B	B	B	-											
今後の取り組み	<p>今 後 の 課 題</p> <p>○青年塾解散により、今後の青年層の活性化に向けては、富良野沿線の青年層に参加いただく事業展開</p>																
	<p>改 善 策</p> <p>○富良野地区広域教育圏振興協議会との連携</p>																

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	成人教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの市民講座事業						
事業の目的・概要	○多様化する学習要求に対応した講座や社会的課題に関する教室等を開設する ○中央公民館、山部公民館、東山公民館の講座を連携して、「ふらの市民講座」として開設	事業年度	開始		終了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
		799	763	762	759	793	
前年度の課題	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域・行政課題といった市民の必要課題についての学習機会の提供など、引き続き検討していく必要がある。						
当該年度の目標	○現代的課題や地域課題などの解決に向けた学習機会の充実と提供						
事業の実施状況	○ふらの市民講座 28講座 全51回 延685名参加) 中央公民館 (全34回 延419名) ・子ども対象 2講座全12回延139名 ・成人対象 6講座全 7回延 67名 ・家庭教育(親子対象) 3講座全 3回延 68名 ・女性対象講座 1講座全12回延145名 ・自主企画講座 山部公民館 (全15回 延256名) ・成人対象 7講座 全7回 延105名 ・全世代対象～ 7講座 全7回 延111名 ・自主企画講座 1講座 全1回 延 40名 東山公民館 (全2回 延10名) ・成人対象 1講座 全2回 延10名						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	<b>達成度・効果度の検証</b> ○講座終了後にアンケートを実施し、学習ニーズの把握に努めている。 ○学習した成果を地域で生かすことにより地域の教育力の向上に寄与している。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後組の	<b>今 後 の 課 題</b>						
	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域・行政課題といった市民の必要課題についての学習機会の提供など、引き続き検討していく必要がある。						
	<b>改 善 策</b>						
取組	○市民の学習ニーズ及び現代的課題や地域課題を的確に把握し、関係部署・機関・団体等との連携をしながら、より豊かで多様性に富んだ講座を企画する。 ・現代的課題～社会生活を送る上での様々な課題の中で、特に現代に生きる市民として学んでおくべき課題 ・地域課題～「まちづくり」、「家庭や地域の教育力」などに係る課題						

評価項目	高齢者教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ことぶき大学運営事業						
事業の目的・概要	○自らの健康に気を配り、喜びと生きがいのある人生観の確立と家庭及び社会における高齢者としての役割を認識して、これまでの豊富な経験と知識を社会に生かすとともに自らの生活向上に役立てる。 ○富良野校、山部校、東山校の3校が地域の実情に根ざした学習活動を展開している。	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26 1,012	H27 955	H28 967	H29 869	H30 1,017
前年度の課題	○新入生の確保に様々な取組を行っているが、入学生が減少傾向にあるので、引き続き学生の確保に努める必要がある。 ○近年、個々で趣味や軽スポーツ等に親しむ傾向にあることから、楽しく魅力ある大学作りに努めるとともに、在校生による勧誘宣伝できる環境づくりが必要。						
当該年度の目標	○高齢者自身が学びあえる自主的な学習活動の推進 ○趣味、文化活動などのグループ、サークルの育成 ○自主的に学習する意欲を高める学習環境の整備						
事業の実施状況	○講話、クラブ学習、教科別学習など年間30日程度の学習を行う ○3校合同学習の実施：講話、運動会、主張実践発表交流会等 ○在籍者数 本科39名 大学院12名 研究科10名 単年登録 8名 計69名 ・富良野校～学習日数30日 本科24名 大学院 7名 研究科 9名 単年登録 8名 計48名 ・山部校 ～学習日数33日 本科14名 大学院 5名 研究科 1名 計20名 ・東山校 ～富良野校合同学習 本科 1名 大学院 0名 研究科 0名 計 1名						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	A	
今後の取組み	今後の課題 ○新入生の確保に様々な取組を行っているが、入学生が減少傾向にあるので、引き続き学生の確保に努める必要がある。 ○近年、個々で趣味や軽スポーツ等に親しむ傾向にあることから、楽しく魅力ある大学作りに努めるとともに、在校生による勧誘宣伝できる環境づくりが必要。						
	改善策 ○ニーズを把握するために学生との話し合いを充実し、より魅力ある学習内容を検討する。 ○各メディアを利用した、ことぶき大学の活動の情報発信に努める。 ○公開学習日や学習内容の成果を発表する機会を通じ、ことぶき大学への理解を深めてもらう。 ○他大学（沿線）との文化・スポーツなどの交流を図る。						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課				
事務事業名	ファミリーサポートセンター事業						
事業の目的・概要	乳幼児や小学校低学年の児童のいる就労者等を会員として、児童の預かり等の援助を受けたい者(依頼会員)と当該援助を提供する者(提供会員)との相互援助活動を組織化し、連絡調整を行うことにより、地域における育児や子育ての相互援助活動を推進し、多様な子育てニーズに応える子育て支援対策の一環として実施する。	事業年度	開始		終了		
			平成26年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			2,291	2,462	2,550	2,568	2,857
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会員相互の交流を深め、相互援助活動の活性化を図る</li> <li>○新規会員の加入促進</li> <li>○会員(提供会員・両方会員)の継続的な資質の向上を図る</li> </ul>						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会員相互の交流を深め、信頼関係の構築を行い、相互援助活動の推進</li> <li>○活動内容の広報活動の推進</li> <li>○会員の学習機会の充実</li> </ul>						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ファミリーサポートセンターの事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>①会員の募集、登録その他の会員組織の管理に関する業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員数【会員156名(依頼会員96名 提供会員36名 両方会員24名)】※H31.3.31現在</li> </ul> </li> <li>②会員相互の援助活動の調整等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互援助活動数 171件224名</li> <li>幼稚園・保育所等の送迎5件7名 習い事の送迎35件60名 保護者の臨時の事由89件106名</li> <li>幼稚園・保育所終了後の預かり2件3名 買い物等外出時の預かり33件39名</li> <li>幼稚園・学校等行事の際の預かり7件9名</li> </ul> </li> <li>③会員等に対して相互援助活動に必要な知識を付与するために行う講習会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.11/20,21,26,29日の4日間(提供会員養成講座)4日間計17時間 12名参加</li> <li>内容:心の発達とその問題、子どもの栄養と食生活、子どもの遊び他</li> </ul> </li> <li>④定期的な広報活動等の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミサポ通信の発行(6回)、パンフレットの配布、ポスター掲示、依頼訪問(幼稚園、保育所、公共施設等)</li> </ul> </li> <li>⑤会員の交流会の開催 3回 52組111名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りミニゲーム(5/15)13組35名</li> <li>・牛乳でバターづくり(8/22)10組16名</li> <li>・マジックショー(12/18)29組60名</li> </ul> </li> <li>⑥公共施設を利用した「つどいの広場」への支援(3歳未満の乳幼児と親子) <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑町児童センターを会場に月1回実施(5月~3月)10:00~11:30</li> <li>会員延べ23名参加</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>						
評価	達成度					達成度・効果度の検証	
	H26	H27	H28	H29	H30		
達成度	—	—	—	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会員同士の交流が図られ、信頼関係の中から相互援助活動へつながっている</li> <li>○活動が知られるようにはなっているが、認知度が不足しているところがある。</li> </ul>	
効果度	—	—	—	A	A		
今後組のみ	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会員同士の交流の輪を広げ、相互援助活動の活性化を図る必要がある。</li> <li>○活動が十分に認知されていない面があるので、広報活動の更なる充実を図る必要がある。</li> <li>○会員(提供会員・両方会員)の保育に係る資質の向上が必要である。</li> <li>○相互援助活動の内容充実</li> </ul>						
今後組のみ	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報活動の充実</li> <li>○会員同士や非会員も含めた交流活動の活性化</li> <li>○会員の資質の向上につながる研修会等の開催や情報提供</li> <li>○相互援助活動受入れ体制充実に向けての環境整備を図る。</li> </ul>						

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課					
事務事業名	子育て支援センター運営費							
事業の目的・概要	乳幼児とその保護者が相互に交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。	事業年度	開始		終了			
			平成15年度		継続			
事業の目的・概要	乳幼児とその保護者が相互に交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。	事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30	
			3,006	3,009	3,410	2,884	3,141	
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より利用しやすい施設運営が必要である。</li> <li>・子育て支援に係る情報発信が必要である。</li> </ul>							
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て中の親子の交流促進や育児相談を行うとともに、情報提供等を適切に行う。</li> <li>・利用者ニーズに対応した各種事業の推進を行う。</li> </ul>							
評価	①ひよっこサロン(月10:00~11:30) 1H自由遊び+0.5H紙芝居・読み聞かせ0~2歳654名							
	②ふれあい広場(火・金10:00~11:30) 1H自由遊び+0.5H保育士と親子で遊ぶ0~2歳 登録制2,522名							
	③子育てサロン(月火水金13:30~15:40) 0~未就学児 親子で自由遊び2,697名							
	④水曜開放(水10:00~11:30) 0~2歳 親子で自由遊び 1,749人							
	⑤土曜開放(月1回土曜日10:00~11:30※10月以降月2回) 親子で自由遊び 0~2歳 270名							
	⑥ふらのっこクラブ(第1・3木 10:00~11:15 2歳~未就学児) ゲーム遊び・ルールのある遊び 484名							
	⑦ふれあい合同広場(第4木 10:00~11:15 0歳~未就学児) 運動遊び(身体をたくさん動かす) 510名							
	⑧パパ広場(年4回 10:00~11:15) 父親と子どものふれあい 0~2歳 91名							
	⑨すくすく遊びの広場(6/10 10:00~13:00) 文化会館中会議室 公民館フェスタ 3歳未満 78名							
	⑩子育て講座の開催 4回167名(小児歯科・救急法・ヘアカット・ベビーダンス)							
	⑪地域幼児クラブへの支援(月1回10:00~11:30) 山部、東山、あおぞら 269名							
	⑫子育て相談109件(支援センター相談105件、来所0件、電話・メール4件)							
	⑬つどいの広場の開設支援 月1回開催 10:00~11:30							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑町児童センターを会場に3歳未満の乳幼児と親 132名 ※5月~3月開催</li> <li>※ファミリーサポートセンター会員運営協力依頼 延べ23名参加</li> </ul>							
	⑭絵本の貸出 109冊							
⑮子育て情報提供								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい広場お便り発行12回</li> <li>・子育てガイドブック700冊配布 ・子育てガイドマップ259冊配布</li> </ul>								
※①~⑤、⑩ 保健センター1階子育て支援センターで開催								
⑥~⑧は、スポーツセンターサブアリーナで開催								
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証	
	達成度	—	—	—	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育てに係る情報交換や親子同士のふれあいの場になっている。</li> <li>○育児不安に対して、気軽に相談できる場となっている。</li> <li>○子育てに係る情報提供を行っている。</li> </ul>
	効果度	—	—	—	A	A		
今後取り組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者のニーズを把握し、より利用しやすい施設運営を行う。</li> <li>○子育て情報提供方法の検討</li> </ul>							
	改 善 策							
今後取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者のニーズを把握し事業内容の見直しを行い、より利用しやすい施設運営を行う。</li> <li>○子育てアプリを導入し、より手軽に情報収集ができる環境を整備する。</li> </ul>							

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課				
事務事業名	こども通園センター運営費						
事業の目的・概要	支援が必要なあるいは配慮が必要な就学前の児童に対して、発達支援、子育て支援を行っている。	事業年度	開始	終了			
			平成3年	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			11,517	11,304	11,840	11,232	12,039
前年度の課題	○心身に障がい又は障がいの疑いのある児童に対し、障がいに応じた適正な療育を行う。						
当該年度の目標	○心身に障がい又は障がいの疑いのある児童に対し、日常生活における基本動作の指導及び集団生活への適応訓練を行い、当該児童の健全な育成を図る。						
事業の実施状況	<p>○児童発達支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心身の発達に心配のあるお子さんの相談や個別的・集団的療育を行い、発達を促すための援助や、保護者の方々の子育てに対する支援</li> <li>個別支援計画に基づき、遊びや生活動作を通して、心身の発達を促し、子どもが持っている力を発揮できるよう支援実施</li> <li>母子(保護者同伴)通園形態を実施</li> </ul> <p>○構成職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達支援管理責任者 1 名、指導員 7 名 (保育士 5 名 (内嘱託 4 名)、作業療法士 1 名、言語聴覚士 1 名)</li> </ul> <p>○療育形態:個別指導、集団指導</p> <p>○療育時間:指定された日時に保護者同伴で通所。1 回の療育時間は、1 時間～1 時間 15 分 月 4 回の療育指導を基本としている。</p> <p>○定員:1 日 10 名 1 週間 50 名</p> <p>○通園児の推移 H26(57人) H27(49人) H28(50人) H29 (51人) H30(58人) 年度末時</p> <p>○乳幼児健診時の相談支援 (7ヶ月相談・1 歳 6 ヶ月健診:作業療法士、3 歳児健診:言語聴覚士)</p> <p>○遊びの教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発育・発達の問題や育児不安、養育上の問題・課題を有する親子に対して、親子で楽しく遊び子育ての相談ができる機会を設け、育児不安の解消、養育環境の改善を図り、子どもの健全な発達を支援する。1 歳 6 カ月～3 歳 3 クール (1 クール 6 回) 15 組 15 名</li> </ul>						
評価	H26 H27 H28 H29 H30					達成度・効果度の検証	
	達成度	—	—	—	B	B	○通園児童の個別支援計画により適正な指導がなされている。 ○専門職(作業療法士、言語聴覚士、保育士)による適正な指導がなされている。
効果度	—	—	—	A	A		
今後の取り組み	今後の課題						
	<p>○発達段階に応じたきめ細やかで、適正な療育への対応</p> <p>○保護者対応</p> <p>○民間児童発達支援施設等との連携</p> <p>○自己評価及び利用者(保護者)による評価の実施に伴う課題の解消</p>						
今後の取り組み	改善策						
	<p>○学習機会を充実し、職員の資質の向上を図る。</p> <p>○保護者の相談や家庭での子育て支援を丁寧に行いながら、療育を行う</p> <p>○関係機関や児童発達支援施設等との定期的に情報交換等を行い、連携を推進する。</p> <p>○自己評価及び利用者(保護者)評価における課題の解決を図る</p>						

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課				
事務事業名	へき地保育所運営費						
事業の目的・概要	へき地における保育を必要とする幼児その他の児童の福祉の増進を図るため施設を設置し、運営する。	事業年度	開始		終了		
			昭和41年		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			21,967	24,884	25,481	20,636	23,344
前年度の課題	保育課程に記載されている保育理念、保育方針、保育目標を踏まえた適正な保育活動の推進						
当該年度の目標	○保育理念：子ども一人ひとりを大切にし、保護者からも信頼され地域に愛される保育所を目指す ○保育方針：生き生きとして明るい元気な子どもを育てる。 ○保育目標 ①丈夫で体力のある子ども ②明るくのびのびあそぶ子ども ③自然に目を向ける子ども ④自分のことは自分でできる子ども ⑤したいこと、してほしいことを言葉で表現できる子ども ○幼児教育施設として、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を意識した保育の推進						
		山部保育所	東山保育所	あおぞら保育所			H31.3.1
定員	50名	30名	30名				
入所者数	21名	16名	15名				
対象年齢	満2歳～5歳児	満2歳～5歳児	満2歳～5歳児				
保育時間	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※4月～10月 17:30迄延長保育	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※4月～10月 17:00迄延長保育	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※4月～10月 17:00迄延長保育				
	給食	無/おやつ有	無/おやつ有				
保育形態	統合・混合保育	統合・混合保育	統合・混合保育				
・運動会（幼小中：東山 幼小：山部） ・親子遠足・発表会・合同行事（交流会・観劇等） ・文化祭への参加・老人会との交流・幼児クラブとの交流・小中学校との交流・へそ踊り							
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	—	B	B	
今後の取り組み	今後の課題						
	○保育課程を職員が十分理解するとともに、保育能力の向上が必要である。 ○保育所が幼児教育施設としての機能を持っていることを理解し、保育をする必要がある。 ○地域や教育施設等との連携による保育事業の推進 ○地域の子育て支援の一環として、就学前の児童を持つ家庭への支援						
○職員の資質向上のため、計画的な学習機会の充実を図る。 ○地域の関係機関等と連携し、保育内容の充実を図るとともに、児童の安全確保に努める。 ○全体的な計画（保育課程）に基づいた、適切な保育活動を推進する。 ○保護者や地域ニーズに対応した子育て支援活動の推進							

Ⅲ 平成30年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	富良野市立虹いろ保育所	担当課	富良野市立虹いろ保育所				
事務事業名	認可保育所運営費						
事業の目的・概要	認可保育所は施設や設備、保育等の人員配置など、国が定める基準を満たし保育を必要とする乳児・幼児を日々保護者の許から通わせて「子どもの最善の利益」を実現する保育を行い児童福祉、幼児教育の向上を図る。	事業年度	開始	終了			
			昭和41年	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
		67,590 中央・麻町	61,844	56,120	59,526	59,873	
前年度の課題	○保育を必要とする児童の健康と安全を保障し、保育所における環境をとおして養護及び教育を一体的に行う。						
当該年度の目標	○多様化する保育ニーズの把握に努め、乳児・幼児が健康、安全で情緒の安定した保育環境の提供。 ○「富良野市立保育所全体的な計画」に基づいた保育内容の充実及び、家庭との連携した保育の推進。 ○乳児保育については、十分に養護の行き届いた環境のもと、生命の保持および安定を図っていく。 ○幼児教育施設として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育活動全体を通して幼児の資質・能力を育む保育事業の推進。 ○幼児教育施設での相談機能の充実を図り虐待の未然防止、早期発見に努め、関係機関との連携を図る。						
事業の実施状況	①子育てと仕事の両立支援 保育時間 7時30分～18時30分 11時間保育 対象年齢 満6ヶ月から就学前まで 入所定員 156名 入所児童数 121名 0歳児～12名 1歳児～23名 2歳児～23名 3歳児～20名 4歳児～25名 5歳児～22名 のべ保育人数 27,715人 ②一時保育事業 保護者の疾病や出産等により緊急に保育が必要とする児童に対する一時的保育事業。一時保育利用者 1名 ③特別支援保育 保育の必要性があり、かつ心身に障がいや有する児童を集団保育及び個別保育を行う。支援を必要とする児童 8名 加配保育士 8名 ④世代間交流 市内高齢者との交流の為年2回訪問及び保育所来所にて交流を図る。 ⑤保育所開放事業 園庭開放及び園行事への参加型開放 5回 親 15名 子16名 利用						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	—	B	A	○各年齢ごとに発達の特徴とねらい、内容、保育者のかかわり方を全体的な計画を基に、児童の自発性、興味や要求を満たした生活やあそびを通して個々の発達に応じた保育を行うことができた。 ○子育てと就労支援を行うことができた。 ○幼児教育施設と家庭、地域が一体となった子育て支援の場として、保育所開放について市民への周知の在り方を検討していく必要がある
	効果度	—	—	—	A	A	
今後取り組み	今後の課題						
	○全体的な計画を職員が共通理解のうえ、公立保育所に求められる指導的・先導的役割を果し保育の質の向上を図っていく必要がある。 ○保育所が幼児教育施設としての自覚を持ち、全体的な計画に基づき子どもの育ちや課題を見抜き、計画を柔軟に捉え反省・実践を行う必要がある。 ○子育て支援の一環として、地域の子どもが安心して遊ぶことのできる場所と地域の親子同士の交流の場を提供するため保育所開放の活動内容について周知の必要性。 ○幼児教育施設として、核家族化による子育てについての悩みへの相談体制の充実						
	改善策						
	○幼児教育施設の多様なニーズに対応した研修体系の整備と研修内容の充実。 ○保育指針の趣旨及び内容の理解を深め様々な幼児教育活動の充実。 ○児童福祉施設における児童の安全確保を図るため安全管理・危機管理マニュアルを遵守した保育活動の推進。 ○地域の保護者等に対して、保育所保育の専門性を生かした子育て支援（保育所開放・子育てコラム）の取り組みについて広報活動の拡充。 ○関係機関との連携を図り保護者への適切な対応を図り、家庭教育を通じた乳幼児期からの子育て支援の充実を図る。						

評価項目	富良野市立虹いろ保育所					担当課	富良野市立虹いろ保育所				
事務事業名	障がい児保育事業費										
事業の目的・概要	○保育の必要性があり、かつ心身に障がい を有する、また、特別な支援を有する児童 に対し、必要な保育を行うことにより、心 身の成長を促すとともに、社会生活に必要 な基礎能力を養い、障がい児及び支援を必 要とする児童の福祉の増進を図ることを目 的とする。	事業年度	開始		終了						
			平成15年		継続						
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30				
			13,304 中央・ 麻町	9,742	11,741	10,220	10,435				
前年度の課題	○障がいのある児童の健全な社会性の発達を促進するため、適正な環境の下で他の児童と生活を通して、ともに成長できる保育を実施し、引き続き障がい児保育の増進を図る必要がある。 ○発達に気になる児童の入所が増加し加配保育士の育成・確保に課題がある。 ○就学期児童の関係機関との情報共有及び連携を図る。										
当該年度の目標	○障がいの特性を十分に配慮した集団保育の提供。 ○必要に応じて障がい児担当保育士の配置を行い健常児との集団生活の中での事故防止等の安全確保を行うことで児童の成長、発達の促進の支援。 ○児童発達センター、なかよし教室との連携をとり、個別に対応した指導計画の作成。 ○就学児を対象とした小学校との連携を図る。										
事業の実施状況	○配慮・支援を必要とする児童の個々の成長発達に応じた保育環境及び適切な保育士の配置を行い児童の成長発達を促す保育体制の促進。 対象児童数 平成30年度 8名 加配保育士8名 ○個別指導計画の作成およびサービス担当者会議にて児童の情報共有。 ○特別支援連携協議会に出席し小学校との連携を図る。 ○就学期の児童の保育要録の作成と各小学校への送付。										
評価						達成度・効果度の検証					
	達成度	H26	H27	H28	H29	H30	○加配保育士の配置を行うことにより児童の安全と発達支援が図られた。 ○子育て支援及び就労支援が行えた。 ○障がいがある無しに関わらず、保育所生活の中で子どもの成長発達を促す事ができた。 ○特別支援教育専門家チームの訪問により、個々の成長に合わせた支援に取り組み就学に向けた連携を図ることができた。				
	効果度	—	—	—	A	A					
今後の取り組み	今後の課題										
	○障がいのある児童の健全な社会性の発達を促進するため、適正な環境の下で他の児童と生活を通して、ともに成長できる保育を実施し、引き続き障がい児保育の増進を図る必要がある。 ○特別な保育的支援を必要とする幼児の増加傾向にあり、保育者が特別な支援保育に関する知識、技能等を身に付ける為の研修機会や研修内容の充実。 ○就学期児童の関係機関との情報共有及び連携を図る。										
今後の取り組み	改善策										
	○特別な支援保育を必要とする幼児の教育的ニーズの把握を行い、保護者及び関係機関との情報共有や連携の強化をはかり指導や支援の充実を図る。 ○教育・保育の質を確保する観点から、特別支援保育に取り組む体制の構築及び、所内外への計画的な研修を図る。 ○「個別指導計画」等作成・活用を図り、関係機関との情報共有や連携の強化を図る。										

Ⅲ 平成30年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	文化財保護啓蒙・普及活動						
事業の目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内外の文化財、史跡、博物館見学など文化財保護のための普及・啓発活動を推進する。</li> <li>○郷土に伝承された民俗芸能を保護し、その活動の奨励に努める。</li> <li>○民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用を図る。</li> </ul>	事業年度	開始		終了		
			昭和43年度		継続		
事業費(決算) (単位:千円)		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			902	898	1,435	1,612	1,586
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市指定文化財の説明板の修繕</li> <li>○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援の継続</li> <li>○文化財見学会等の実施による文化財保護思想の普及啓発活動の推進</li> </ul>						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援の継続</li> <li>○郷土の歴史をひもとく調査研究活動の推進</li> <li>○文化財見学会等の実施による文化財保護思想の普及啓発活動の推進</li> </ul>						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化財見学会「魅力再発見！レトロ建築めぐり（東山地区）」9/15 参加者18名</li> <li>○帝国繊維株式会社亜麻工場に関する調査の実施</li> <li>○埋蔵文化財保護のための事前協議・所在確認調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・道営草地畜産基盤整備事業 ふらの地区 所在確認調査</li> <li>・国営施設応急対策事業 鳥沼宇文地区 事前協議</li> </ul> </li> <li>○市指定文化財の保護 <ul style="list-style-type: none"> <li>「富良野獅子舞」「北海道中央経緯度観測標」</li> <li>「北海道大学第八農場富良野成壘記念碑」「北海道大学第八農場山部成壘記念碑」</li> </ul> </li> <li>○郷土芸能保存団体の活動支援 市費補助金の交付 <ul style="list-style-type: none"> <li>富良野獅子舞保存会 180千円、富良野弥栄太鼓保存会 344千円、山部獅子舞保存会 72千円</li> </ul> </li> <li>○郷土芸能伝習館の効果的活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者である富良野市郷土芸能伝習館運営委員会による円滑、効果的な管理運営（利用団体：富良野弥栄太鼓保存会、富良野獅子舞保存会）</li> <li>・指定管理期間 平成28年4月1日～平成33年3月31日</li> </ul> </li> <li>○蒸気機関車D51フラスイ号の維持管理（委託料798千円）</li> </ul>						
評価			H26	H27	H28	H29	H30
	達成度	B	B	B	B	B	B
評価			H26	H27	H28	H29	H30
	効果度	B	B	B	B	B	B
<b>達成度・効果度の検証</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>○今回で市内全域の歴史建造物見学会をひととおり終えた。歴史建造物の歴史的・文化的価値を再評価し、地区の歴史について学ぶ機会を提供できた。</li> <li>○郷土芸能保存団体への財政的支援や活動拠点の確保により民俗芸能の保護と活動の奨励に一定の効果あげていると思われるが、会員減少・後継者不足の解消には至っていない。</li> </ul>							
今後の取り組み	<b>今後の課題</b>						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援の継続</li> <li>○郷土芸能伝習館の計画的な施設整備</li> <li>○文化財見学会を新たな切り口で実施する。</li> </ul>						
今後の取り組み	<b>改善策</b>						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土芸能保存団体会員の確保と後継者の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の要望聞き取りを行うなど連携を深め、活動を支援する。</li> <li>・団体の活動状況を生涯学習センターホームページや広報等で随時情報発信する。</li> </ul> </li> <li>○郷土芸能伝習館の施設整備を行い、利用団体の円滑な活動を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明器具のLED化 ・練習場の絨毯張替え ・屋根塗装修繕工事</li> </ul> </li> </ul>						

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	博物館活動推進事業						
事業の目的・概要	本市の自然、歴史、文化についての調査研究、資料の収集展示保存、啓蒙普及等の博物館活動を推進する。	事業年度	開始	終了			
			昭和43年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			1,196	1,141	1,137	1,084	1,172
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土の自然や文化財を地域資源として調査研究し、成果の教育普及に努め、価値を再認識できるような事業を展開していく。</li> <li>○美術アート系の講座は協力講師の拡大を図り、新たな切り口で美術の楽しさを発信できる事業を企画する。</li> </ul>						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土の自然や文化財を地域資源として調査研究し、展示や学習資料の作成等とおして成果の教育普及に努める。</li> <li>○美術系の講座や展示は協力講師や開催内容の多様化に引き続き取り組み、より多くの市民が身近に美術の楽しさを感じることができる事業を企画する。</li> </ul>						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別展・企画展等の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第33回特別展「安田律子 漆絵展」4/14～5/20 観覧者2,705人</li> <li>・第34回特別展「透明標本と骨格標本の世界」7/14～9/9 観覧者2,861人</li> <li>・富良野アートギャラリー絵画展「2018COLLECTION GALLERY」11/3～3/3 観覧者 1,367人</li> <li>・企画展「松浦武四郎の十勝越えを歩く会2018成果巡回展」6/16～7/1 観覧者 1,347人</li> </ul> </li> <li>○講演会・講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「松浦武四郎の十勝越えを歩く会2018」報告会 6/23 42人</li> <li>・特別展関連講座「標本作成体験講座」全4回 延37人</li> </ul> </li> <li>○美術ワークショップ「アートを楽しもう！」全2回 延41人</li> <li>○小中学校等の学習支援・出前講座(山部小・布部小・東小・樹海小・鳥沼小・麓郷小・扇山小・富良野小・富良野高校・富良野看護専門学校・富良野市教育研究会社会科班・同理科班・JAふらの青年部・ことぶき大学富良野校・山部文化協会・東春ふれあいサロン・麻町ふれあいサロン・富良野地域日台親善協会教育旅行)</li> <li>○インターンシップ受入れ(富良野高校1年生 1名 10/23・24)</li> <li>○博物館資料の貸出し みゅーじあむぼっくす(山部小・麓郷小・布礼別小)他4件</li> <li>○博物館広報紙「MUSEUM LETTER」(vol.28・29)の発行</li> </ul>						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土の自然や文化財を地域資源として調査研究し、展示や学習資料の作成等とおして成果の教育普及に努める。</li> <li>○博物館年報を発行し、調査研究活動によって得られた知見の公開、蓄積を図る。</li> <li>○美術系の講座や展示は協力講師や開催内容の多様化に引き続き取り組み、より多くの市民が身近に美術の楽しさを感じることができる事業を企画する。</li> </ul>						
今後取り組み	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然史や郷土史の研究団体等との連携協力を深め、調査研究活動を継続して実施する。</li> <li>○博物館事業への協力者やボランティアの発掘に努める。</li> </ul>						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	自然体験・環境学習事業						
事業の目的・概要	○自然や環境への理解を深める取り組みを推進する。 ○自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業年度	開始	終了			
			昭和51年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29 H30	
			博物館活動推進事業に包含				
前年度の課題	○自然観察や体験の楽しさを実感できるような事業展開を図り、より多くの子どもたちや市民が身の回りの自然について考える機会を持つ。 ○関係諸機関や市民団体等の協力を得ながら自然体験活動や調査研究活動を推進していく。						
当該年度の目標	○市民参加型の自然体験活動をとおして、自然に興味関心を寄せる人材の発掘と育成に努める。 ○地域の自然環境の変化を知り、将来的な保全と活用を図るために、身近な自然について調査活動を継続的し、今後の普及活動につなげていく。						
事業の実施状況	○自然観察会の開催 「富良野の自然に親しむ集い」全4回 延75名 ・4/28春の草花観察会 ・5/20イトウの生態と保全への取り組みを学ぶ ・7/27へイケボタル観察会 ・3/24早春の森をめぐろう ○自然講演会の開催「シマフクロウに学ぶ自然保護」9/2 26人 ○ふらの森の教室の開設 展示、自然観察ガイド ○小中学校等の環境教育への指導・協力(山部小6回、樹海小1回、麓郷小布礼別小合同1回) ○自然環境保全活動 ・外来種対策事業「オオハンゴンソウを減らそう」(鳥沼公園)全2回 ・山川草木を育てる集い植樹祭(清水山) ・太陽の里ホテルの里づくり事業 へイケボタル生息調査 ○遊々の森「太陽の里ふれあいの森」自然観察コースの活用・整備(上川南部森林管理署との協定) ○東大演習林神社山自然観察路春季・秋季一般公開の共催(東京大学北海道演習林との交流に関する協定)						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証 ○郷土の身近な自然を題材として自然体験活動を実施することによって、市民の環境教育に寄与している。 ○自然観察会を継続することで、身近な自然の多様性や人と自然のかかわりについて考える機会となっている。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題						
	○市民参加型の自然体験活動をとおして、身近な自然に対する参加者の興味関心を喚起する。 ○小中学生等若年層の参加を促す工夫が必要である。 ○身近な自然について調査活動を継続的し、保全と活用のための情報を蓄積する。						
今後の取り組み	改善策						
	○関係諸機関や市民団体等の協力を得ながら自然体験活動や調査研究活動を推進していく。 ○学校や地域等での出前講座の活用を図る。						

評価項目	文化振興	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	山部菊の会補助金						
事業の目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「山部菊花展」開催をはじめとする、山部菊の会活動に対する補助。</li> <li>○会は昭和56年3月発足以来、品種改良等の研究、研修見学会、小学生や市民を対象とした菊づくり指導等の活動を展開している。</li> <li>○後継者の育成を目指すとともに、地域に根付いた貴重な伝統文化としての「山部菊花展」の継承・発展を図り地域の活性化に資する。</li> </ul>	事業年度	開始	終了			
			平成25年度	平成30年度			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			300	300	300	300	0
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統文化の継承、地域の活性化及び生涯学習の取り組みとして、菊花展開催等の活動の支援を継続する。</li> <li>○市民講座をとおして菊づくりの基礎や楽しさを伝える。</li> </ul>						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統技術の継承、地域の活性化及び生涯学習の取り組みとして会員の確保は重要であるが、現状では大変厳しい状況である。</li> <li>○会の状況を見ながら活動支援のあり方を検討する。</li> </ul>						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○山部菊の会の活動休止により、山部総合文化祭「やまべ菊花展」及びふらの市民講座「菊づくり体験講座」は開催できなかった。</li> <li>○市費補助金は減額補正により交付せず。</li> </ul>						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証 ○会の活動休止により事業が執行されなかったため。
	達成度	B	B	B	C	-	
	効果度	B	B	B	C	-	
今後の取り組み	今後の課題 ○菊の会をあらためて組織化できる見通しが立たないため、やまべ菊の会補助金は平成30年度をもって廃止とする。						
	改善策						

Ⅲ 平成30年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	森林環境教育	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	森林学習プログラム推進事業						
事業の目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京大学北海道演習林の恵まれた森林資源を活用し、市内小中学生を対象に森林環境教育を推進する。</li> <li>○市第5次総合計画後期基本計画及び市総合戦略の実施事業。重要業績評価指標（KPI）森林学習プログラム参加校 15校/年（H31）</li> <li>○文科省「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業委託金」（H27・28）の採択</li> <li>○森林学習プログラムの構築と森林ガイドの発掘・育成を東大演習林の監修の下、北海道教育大学旭川校の協力を得て行う。</li> </ul>	事業年度	開始		終了		
			平成27年度		継続		
事業費(決算) (単位:千円)		—	H26	H27	H28	H29	H30
			—	(国費) 479	3,672 (内国費 1,483)	3,157	3,372
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プログラムの実践校を平成29年度は8校に拡大する。</li> <li>○今年度作成したプログラムの改善を図り、定番プログラムを完成する。</li> <li>○森林ガイド候補者の発掘を進め、育成のための講座や研修会を継続して開催するとともに、ガイド認定制度を設けてレベルの維持向上に努める。</li> <li>○神社山の市民公開のあり方を東大演習林と協議する。</li> </ul>						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成30年度は7校でプログラムを実践する。</li> <li>○定番プログラムの完成に向け、プログラムのさらなる改善を図る。</li> <li>○森林学習サポーター認定制度を導入し、人材の確保と育成に努める。</li> <li>○神社山の市民公開のあり方を、サポーター育成の状況を勘案しながら、東大演習林と協議する。</li> </ul>						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東大演習林の監修のもと北海道教育大旭川校理科教育教室の協力によりプログラムの作成、改善、実践を行った。</li> <li>○プログラム実践校 全7校（小学校5校 山部小、樹海小、東小、布礼別小、富良野小、中学校2校 山部中、樹海中） 延11日 110人参加 サポーター延53人参加 ※東小は悪天候のため中止</li> <li>○学校向けに森林学習プログラムの手引きを作成し、教職員の事業に対する理解促進に努めた。</li> <li>○森林学習サポーター認定制度の導入 認定研修と試験を経て8人をサポーターとして認定・登録</li> <li>○「サポーターの集い」を6回開催し、事業の検証とプログラムの改善を行った。</li> <li>○第4回「森林学習プログラム推進事業検討会議」の開催 3/1 17名出席 平成30年度事業報告、次年度事業計画、プログラム改善に係る意見交換を行った。</li> <li>○広報紙「ふらの森の教室だより」を発行、広報ふらのに掲載し事業実施状況を市民に周知</li> <li>○フィールドの環境整備（危険木伐採、歩道草刈り、簡易トイレ設置）</li> </ul>						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証
	達成度	—	B	B	B	B	
	効果度	—	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○試行から3年を終え、事業の基本的な形を整えることができた。</li> <li>○事前学習-プログラム実践-事後学習をセットで取り組み、学びの深化につなげることができた。</li> <li>○森林学習サポーター認定制度を導入し、8名の森林ガイドを登録することができた。</li> <li>○プログラムの改善とガイド人材の発掘育成に引き続き取り組む必要がある。</li> </ul>
今後の取り組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成31年度は8校でプログラムを実践する。</li> <li>○北海道教育大学旭川校と連携し、小学校大規模校向けプログラムを作成する。</li> <li>○サポーター認定制度により新規ガイドを広く募集し、活動の継続と拡大に努める。</li> <li>○事業運営を軌道に乗せるための運営協議会を参加関係者により設置する。</li> </ul>						
	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係者と連携協力し、プログラムの向上、サポーターのスキルアップ、安全管理の徹底を図る。</li> <li>○サポーター向けテキストの作成に取り組む。</li> </ul>						

評価項目	図書館					担当課	図書館				
事務事業名	図書館運営管理事業										
事業の目的・概要	<p>【目的】図書館の維持管理と市民に対する読書活動等を通じた生涯学習の場の提供</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館の運営</li> <li>○図書館利用者団体等への施設貸出</li> <li>○図書館利用促進のためのイベント主催</li> <li>○インターネット利用端末の設置</li> <li>○図書館情報の提供</li> </ul>	事業年度	開 始		終 了						
			昭和47年度		継続						
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30				
20,390	26,160		32,989	27,320	27,273						
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展</li> <li>○図書館情報システムの機能活用</li> <li>○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営</li> <li>○利用者サービスのさらなる向上のため、開館日数と開館時間の見直し検討</li> <li>○図書館に足を運ぶことが困難な市民への対応</li> </ul>										
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、地域住民への情報提供を行う。</li> <li>○図書館情報システム（検索端末）を増設し、読書推進機能を充実させる。</li> <li>○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。</li> <li>○開館日数増と開館時間延長の試行を継続実施する。</li> <li>○施設入所者等へのサービスを検討する。</li> </ul>										
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館の運営 開館日数：287日 利用登録人数：14,505名 貸出人数：30,589名 貸出冊数：146,587冊 図書館利用者団体会議2回 図書館ボランティア登録人数49名</li> <li>○利用状況 多目的ホール及びサークル室：251回延2,673名 展示ホール：5回60日968名（図書館まつり期間中は除外）</li> <li>○図書館まつり 期間：10月6～27日 来場人数：7,094名</li> <li>○図書館情報システム増設（検索機1台）</li> <li>○開館日数増と開館時間延長の試行 開館日数：月曜日が「国民の祝日に関する法律に規定する休日」の場合も翌日を開館 8日間 開館時間：毎週水曜日を19時まで開館 50日間（50時間）</li> </ul>										
評価		H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証				
	達成度	A	A	A	A	A	○登録人数は446人増加し、生涯学習の場として市民参加・ボランティアとの協働による施設の有効活用が進んでいる。				
	効果度	A	A	A	A	A	○開館日数増の試行日平均で、貸出人数103人（火曜日平均の101.0%）、貸出冊数478冊（同98.2%）の利用があった。開館時間延長の試行日平均で貸出人数10.0人（水曜日の他の時間平均の88.4%）、貸出冊数51.7冊（同90.9%）の利用があった。				
今後の取り組み	今 後 の 課 題										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展</li> <li>○図書館情報システムの機能活用</li> <li>○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営</li> <li>○利用者サービスのさらなる向上のため、開館日数と開館時間の見直し検討</li> <li>○図書館に足を運ぶことが困難な市民への対応</li> </ul>										
	改 善 策										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示やチラシ、図書館ホームページ、ラジオ広報、フェイスブック等を活用して、地域住民への情報提供を行う。</li> <li>○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。</li> <li>○開館日数増と開館時間延長の試行を継続実施する。</li> <li>○施設入所者等へのサービスを検討する。</li> <li>○窓口業務の省力化とともにサービスの向上を検討する。</li> </ul>										

Ⅲ 平成30年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書資料整備事業						
事業の目的・概要	<p>【目的】 地域住民の生涯学習の基礎となる図書資料の収集・提供</p> <p>【概要】 ○社会情勢・利用者ニーズ・地域特性に対応した新刊書・新聞雑誌等の選択と収集 ○視聴覚ライブラリー資料の収集 (富良野地区広域教育圏振興協議会)</p>	事業年度	開始	終了			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
前年度の課題	<p>○新鮮で適切な資料構成の維持</p> <p>○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化</p> <p>○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理</p>						
当該年度の目標	<p>○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。</p> <p>○録音図書や大活字本など、高齢者や障がい者に対応した図書資料の整備を進める。</p>						
事業の実施状況	<p>○登録購入書籍：一般書1,872冊、児童書914冊、雑誌997冊、新聞8紙</p> <p>○除籍数：1,890冊</p> <p>○利用者の学習及び調査研究のための参考図書や専門的資料の収集</p> <p>○地域の郷土資料及び行政資料の収集による、地域の特色ある知的財産の蓄積</p> <p>○CDとDVDの館内視聴</p> <p>○北海道新聞データベースの提供</p> <p>○視聴覚ライブラリー：DVDソフト37本購入（富良野地区広域教育圏振興協議会）</p> <p>○録音図書：所蔵数556本、大活字本：所蔵737冊</p>						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	<p>達成度・効果度の検証</p> <p>○社会情勢・利用者ニーズを把握し、様々な図書情報を活用する中で、適切に新刊書を選択と収集を行っている。</p> <p>○録音図書や映像資料の館内視聴や、北海道新聞データベースの閲覧サービスなど、図書以外のサービス提供も行っている。</p>
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	<p>今後の課題</p> <p>○新鮮で適切な資料構成の維持</p> <p>○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化</p> <p>○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理</p>						
	<p>改善策</p> <p>○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。</p> <p>○録音図書や大活字本など、高齢者や障がい者に対応した図書資料の整備を進める。</p>						

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	読書活動推進事業						
事業の目的・概要	<b>【目的】</b> 市民の生涯学習の基礎となる図書資料及び図書情報の提供 <b>【概要】</b> ○図書資料情報の多面的な提供と積極的な貸出 ○相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			—	—	—	—	—
前年度の課題	○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
当該年度の目標	○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。						
事業の実施状況	○インターネット図書検索システム、館内テーマ展示、図書館だより、広報紙による情報提供 ○リクエスト数：3,597冊（自館窓口2,197冊＋自館web636冊＋他館借受764冊） ○相互貸借：他図書館からの借受764冊 他図書館への貸出319冊						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	<b>達成度・効果度の検証</b> ○市民一人当たりの貸出冊数は、6.40冊と高い水準にあり、利用登録者数も14,505人となっている。 ○「どくしょのきろく」発行798件70,431行の利用。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	<b>今 後 の 課 題</b>						
	○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
	<b>改 善 策</b>						
	○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。 ○読書推進機能の利用を促進する。						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	子どもの読書推進事業						
事業の目的・概要	<b>【目的】</b> すべての子どもたちが読書に親しみ、いつでもどこでも読書できる環境づくり <b>【概要】</b> ○ブックスタート（乳児7ヶ月相談時） ○ブックスタートプラス（1歳6か月） ○各種おはなし会 ○こどもの図書館まつり ○学校図書館支援	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			672	734	851	865	865
前年度の課題	○「子どもの読書推進プラン【第2次計画】」の具体的取組。 ・家庭における読書活動の啓蒙 ・地域・図書館における読書活動の推進 ・学校図書館への支援						
当該年度の目標	○ブックスタートやブックスタートプラスなど、家庭における読書活動の推進事業を継続する。 ○図書館情報システムの増設（検索機）により読書推進サービスの提供を行う。 ○学校図書館環境の改善に向けた活動を継続する。						
事業の実施状況	○ブックスタート：12回154名配布（ボランティア団体と図書館の共同実施） ○ブックスタートプラス：63名配布（来館配布） ○土曜日のおはなし会：11回292名（子ども128名＋保護者114名＋ボランティア50名）参加 ○えいごのおはなし会：10回267名（子ども115名＋保護者105名＋ボランティア47名）参加 ○どんぐりのおはなし会：43回853名（子ども381名＋保護者303名＋ボランティア169名）参加 ○こどもの図書館まつり：5月9～12日 来館者1,591名 実行委員会主催 ○学校図書館支援 ・ブックトラック事業 小学校8校240冊、中学校3校90冊、児童書団体相互貸借貸出6,181冊、 学校図書館サポートブック5校743冊 ・学校図書館運営相談：5月30日実施 6名参加（学校司書、教育委員会職員、図書館職員） ○ボランティア研修会：11月8日開催 50名参加（講師：五十嵐絹子氏） ○ボランティア視察研修：11月16日実施 15名参加（旭川市内小中学校図書館 3校） ○児童館巡回貸出：5館50冊						
評価		H26	H27	H28	H29	H30	<b>達成度・効果度の検証</b> ○児童書の個人貸出冊数61,347冊、幼児・児童一人当たりの児童書直接貸出冊数19.1（平成26年度全道平均9.2冊）と、高い水準を保っている。 ○0～6歳の登録者371名（前年度比62名増）
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	<b>今 後 の 課 題</b>						
	○「子どもの読書推進プラン【第3次計画】」の策定。 ・家庭における読書活動の啓蒙 ・地域・図書館における読書活動の推進 ・学校図書館への支援						
	<b>改 善 策</b>						
	○ブックスタートやブックスタートプラスなど、家庭における読書活動の推進事業を継続する。 ○図書館情報システム更新による新たな子どもの読書推進サービスの提供を行う。 ○学校図書館環境の向上に向けた活動を継続する。 ○学校司書との連携を強化し、サポート体制を構築する。						

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	安全安心な学校給食の提供						
事業の目的・概要	衛生管理の徹底を図り、経年劣化した調理機器等の更新など施設設備の整備を進めながら、食中毒の発生や異物混入等を防止し、安全・安心で美味しい学校給食の安定供給に努める。	事業年度		開始	終了		
				継続			
		事業費(決算) (単位:千円)		H26	H27	H28	H29
			251,202	245,923	240,914	264,900	241,589
前年度の課題	<p>○施設はH11年供用開始のため各所に経年劣化が見られ、大型機械及び厨房調理機器等も耐用年数を経過している。突発的な故障は給食提供中止を招くため、今後も計画的な設備機器の改修、更新を進める。</p> <p>○給食機器の停止や天候異常に伴う交通障害による輸送不能など、給食提供中止となった場合の対応検討。</p>						
当該年度の目標	<p>○安全・安心で美味しい学校給食の推進。</p> <p>○安定した給食の供給。</p> <p>○大型機械（給湯ボイラー）の更新。</p> <p>○厨房内調理機器（フライヤー）、食器（仕切り皿）。</p>						
事業の実施状況	<p>○富良野市・中富良野町・占冠村の小学校15校、中学校8校、義務教育学校1校に年間195回を基準として、米飯週3回、パン・麺各週1回の給食を提供</p> <p>○「学校給食衛生管理の基準」を遵守した学校給食センターの運営</p> <p>○学校給食献立委員会による献立内容の改善と協議（6回開催）</p> <p>○調理員を対象に安全衛生管理指導の実施（1学期、3学期開始時、講師:栄養教諭）</p> <p>○沿線調理員及び食品納入業者合同の衛生管理研修会実施（7/27、講師：東京サラヤ（株）サニーステーション事業本部員）</p> <p>○HPを活用した給食献立表及び使用食材産地の公表</p> <p>○施設設備及び調理機器等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厨房床修繕 140,292円</li> <li>・ プラットフォーム屋根修繕 88,560円</li> <li>・ 厨房内消毒保管機修繕 372,729円</li> <li>・ 上水埋設管修繕 171,720円</li> </ul> <p>○工事請負費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給湯暖房温水機更新工事 7,884,000円</li> </ul> <p>○備品等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食配送用コンテナ（4学級用）1台 601,344円</li> <li>・ 衣類用乾燥機 1台 73,904円</li> <li>・ ガスフライヤー 4台 2,255,040円</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原水フロートスイッチ他修繕 172,800円</li> <li>・ 蒸気ボイラー配管修理 114,480円</li> </ul>						
評価						達成度・効果度の検証	
		H26	H27	H28	H29	H30	
	達成度	B	A	A	A	A	
効果度	A	A	A	A	A		
<p>○厨房調理機器、給食供給用備品の経年劣化の状況を的確に把握し、優先順位を決め、計画的な更新及び改修を進め、継続して安全で安心な学校給食の提供が図られた。</p>							
今後の取組み	今後の課題						
	<p>○まだ未更新の大型機械及び厨房調理機器等も耐用年数を経過している。突発的な故障は給食提供中止を招くため、今後も計画的な設備機器の改修、更新を進める必要がある。</p>						
	改善策						
<p>○安定した給食提供のため、施設設備、大型機器等の状態を把握し、計画的な更新を進める。 (H31：揚水ポンプ交換修繕、破砕機部品交換修繕、自動床洗浄機、スチームコンベクション、保冷材用冷凍庫、冷凍庫室外機ユニット、パソコン、給食配送車、汁カップ更新)</p>							

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	「富良野ふるさと給食」の実施						
事業の目的・概要	<p>地元でとれた旬の食材や特産品を子どもたちに伝え、食べ物が身近になることで「地産地消」の意味や意義を学習し、食の大切さや食材の生産・加工・流通を学ぶ機会とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地場及び道産の食材 9割使用</li> <li>・学校農園野菜の活用</li> <li>・地産地消の啓発</li> </ul>	事業年度	開始		終了		
			平成16年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			—	—	—	—	—
前年度の課題	<p>○新たな旬の使用食材の検討確保と提供者の開拓。 ○生産者の顔が見える給食提供のため、地元産食材使用の更なる情報提供方法の検討。</p>						
当該年度の目標	<p>○食の大切さや感謝する心を育む食育の推進。 ○地産地消の推進。</p>						
事業の実施状況	<p>○ふるさと給食：9月11日、12日実施 ○ふるさと食材の日：5月～2月（9月を除く、）毎月1回実施（旬の食材や加工品を使った一品を提供） ○北海道新聞による「ふるさと食材の日給食」の取材及び記事掲載（6回） ○沿線自治体の生産者、企業、学校農園等の協力により地元及び道産食材を確保 ○「給食だより号外」による旬の食材紹介、地産地消を啓発 ○ふるさと給食特別号「ふるさと給食2017 ー地元富良野を味わおうー」発行 ○理事者、議員、教育関係者等の給食試食会開催 ○終了後、ふるさと給食・ふるさと食材の実施内容について、学校アンケート実施（24校中：ふるさと給食-19校、ふるさと食材-20校回答） ※特徴的な回答 ・地産地消への意識付けになるような食材の使用になっていた・・・84% ・学校配布資料がカラー版だったので、生産者の顔がわかりやすい、興味、関心を持てる・・・89% ・ふるさと食材の日が開始した前年度より定着してきたためか、効果的だった・・・80% ・学校行事と重なり食べることが出来なかったのが、重ならないような日程にしてほしい。 ・震災の影響でふらの牛乳ミルクパンがご飯に変更になったのが残念だった。</p>						
評価			H26	H27	H28	H29	H30
	達成度	A	A	A	A	A	A
評価			達成度・効果度の検証				
	効果度	A	A	A	A	A	A
今後組の	<p>今 後 の 課 題</p> <p>○新たな旬の使用食材の検討確保と提供者の開拓。 ○HPのみならず多くの方にも知ってもらうためにも、児童生徒の家庭等にも資料の配布を検討。</p>						
	<p>改 善 策</p> <p>○協力農家等の情報収集と、生産者と児童生徒との交流機会により「顔が見える学校給食」を実施し、地域農業への理解と地産地消の意義を学ぶ機会としての充実を図る。 ○学校行事だけでなく、それに伴う振替休日にも重ならないような日程の検討を行う。</p>						

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	食に関する指導の推進						
事業の目的・概要	学校給食を「生きた教材」として活用し、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるようにする。また、食事の楽しさや喜び、食物の生産等にかかわる人々への感謝する気持ちを持つなど豊かな心を育成する。  ・栄養教諭による食の指導（配置校・未配置校）	事業年度	開始	終了			
			継続				
前年度の課題	○食育の重要性について周知するとともに、栄養教諭及び管理栄養士の専門性を活かし、各学校の要望に沿った食の指導を進める必要がある。 ○食べ残しを少なくすることは重要ではあるが、和洋中の調理、各種食材の活用、地域の食文化を伝えるなど多様な献立を導入することも重要。そのため、リクエストメニューを取り入れるなどを行い、食べ残しを少なくする取り組みを進める。 ○各学校の学級担任、養護教諭、給食担当職員と連携し、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。	事業費(決算)(単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30
			—	—	—	—	—
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けると共に、感謝する気持ちなど豊かな気持ちを身に付ける。 ○食べ残しを少なくする取り組み。						
事業の実施状況	○2名の栄養教諭による食の指導 ・配置校 富良野小学校 ～ 全学年全教室で食育授業を実施 富良野西中学校 ～ 家庭科、保健体育の時間を中心に全学年指導 ・未配置校 22校の内14校で指導（扇山小、鳥沼小、東小、布部小、布礼別小、山部小、樹海小、中富小、西中小、宇文小、旭中小、本幸小、占冠中央小、中富中） ○社会見学における食の指導（鳥沼小、中富小、山部小） ○年間指導計画作成及び給食だより発行 ○年間指導計画に基づく給食指導要領作成 ○献立委員会等との連携による献立の見直し実施 ○保護者向けの食の講話他実施（扇山小、布礼別小、旭中小） ○給食時間における調理員の派遣（9校19回実施）						
評価			H26	H27	H28	H29	H30
	達成度	B	B	A	A	A	達成度・効果度の検証 ○未配置校へは、指導依頼があった全ての学校の要望に応え、児童生徒や保護者へ指導を行った。 ○学級担任、養護教諭、給食担当教職員と連携し、効果的な指導体制の確保につながった。 ○給食時間に調理員を派遣することにより、食べ物に対する感謝の気持ちを育む取り組みを行った。
効果度	A	A	A	A	A		
今後組の	今 後 の 課 題						
	○食育の重要性について周知するとともに、栄養教諭及び管理栄養士の専門性を活かし、各学校の要望に沿った食の指導を進めるとともに、学校給食を「生きた教材」として食事の重要性を伝えていく必要がある。 ○食べ残しを少なくすることは重要ではあるが、和洋中の調理、各種食材の活用、地域の食文化、行事食を伝えるなど多様な献立を導入することも重要。そのため、リクエストメニューを取り入れるなどを行い、食べ残しを少なくする取り組みを進める。 ○各学校の学級担任、養護教諭、給食担当職員と連携し、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。						
取組	改 善 策						
	○学級担任、養護教諭、給食担当教職員と連携を図り、食に関する指導を推進する。 ○栄養教諭未配置校の食の指導は、原則栄養教諭の担当校の割り当てに基づき、学校からの要望により調整の上対応する。						

Ⅲ 平成 30 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	富良野学校給食センター		担当課	富良野学校給食センター																																								
事務事業名	学校給食費の徴収																																											
事業の目的・概要	給食センター、学校、保護者の連携・協力により、現金徴収及び口座引き落とし等を利用し、学校給食費を徴収する。給食費の未納防止に努め、円滑な学校給食の運営を図る。	事業年度	開 始		終 了																																							
			H26		H27	H28	H29	H30																																				
前年度の課題	<p>○構成市町村の教育委員会・学校・家庭と連携を図り、早め早めの連絡、督促等により未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。</p> <p>○給食費の徴収について、文科省が「自治体が自らの業務として責任を負うことが望ましい」方針を決め、教職員の働き方改革一環として取り上げられている。今後の国等からの指導の基づき対応を検討する。</p>																																											
当該年度の目標	○給食費収納率の向上及び滞納額の圧縮。																																											
事業の実施状況	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>調定額(円)</th> <th>収入済額(円)</th> <th>未収入額(円)</th> <th>収納率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30年度給食費</td> <td>131,209,245</td> <td>131,144,040</td> <td>65,205</td> <td>99.95</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">内 訳</td> <td>富良野</td> <td>99,032,285</td> <td>99,005,245</td> <td>27,040</td> <td>99.97</td> </tr> <tr> <td>中富良野</td> <td>26,463,830</td> <td>26,425,665</td> <td>38,165</td> <td>99.86</td> </tr> <tr> <td>占冠</td> <td>5,713,130</td> <td>5,713,130</td> <td>0</td> <td>100.00</td> </tr> <tr> <td>過年度給食費</td> <td>455,345</td> <td>30,315</td> <td>425,030</td> <td>6.66</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>131,664,590</td> <td>131,174,355</td> <td>490,235</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>「児童手当」からの天引き申出額 0件</p>								区 分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)	30年度給食費	131,209,245	131,144,040	65,205	99.95	内 訳	富良野	99,032,285	99,005,245	27,040	99.97	中富良野	26,463,830	26,425,665	38,165	99.86	占冠	5,713,130	5,713,130	0	100.00	過年度給食費	455,345	30,315	425,030	6.66	合 計	131,664,590	131,174,355	490,235	—
	区 分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)																																							
30年度給食費	131,209,245	131,144,040	65,205	99.95																																								
内 訳	富良野	99,032,285	99,005,245	27,040	99.97																																							
	中富良野	26,463,830	26,425,665	38,165	99.86																																							
	占冠	5,713,130	5,713,130	0	100.00																																							
過年度給食費	455,345	30,315	425,030	6.66																																								
合 計	131,664,590	131,174,355	490,235	—																																								
評価			H26	H27	H28	H29	H30	達成度・効果度の検証																																				
	達成度	A	A	A	A	A	A		○学校・家庭と連携を図り、高い徴収率が維持できた。 ○滞納分は電話や文書督促及び休日訪問徴収を行い滞納解消に努めた。																																			
今後の取り組み	<b>今 後 の 課 題</b>																																											
	<p>○構成市町村の教育委員会・学校・家庭と連携を図り、早め早めの連絡、督促等により未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。</p> <p>○給食費の徴収について、文科省が「自治体が自らの業務として責任を負うことが望ましい」方針を決め、教職員の働き方改革一環として取り上げられていることもあり、次年度からの対応を具体的に検討する。</p>																																											
今後の取り組み	<b>改 善 策</b>																																											
	<p>○滞納家庭においては、学校及び構成教育委員会との連携により家庭状況等を把握し、児童手当からの引き落としなどを検討する。</p> <p>○滞納給食費については、富良野市が債権管理条例を制定したことから、準用するなど、不納欠損処理について具体的に検討する。</p>																																											

評価項目	富良野学校給食センター					担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	食物アレルギーの対応										
事業の目的・概要	食物アレルギーを有する児童生徒が、他の児童生徒と同様に学校給食を楽しむことができるよう安全性を確保する。	事業年度	開始		終了						
			平成23年度		継続						
事業の目的・概要		事業費(決算)(単位:千円)	H26	H27	H28	H29	H30				
			—	—	—	—	—				
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食物アレルギー対応の基準、基本的な方針の策定。</li> <li>○学校、保護者、給食センターでの食物アレルギーに対する共通認識と情報の共有。</li> <li>※年々アレルギー体質、一方で稀ではあるが思想的な理由から特定食材を拒食という児童生徒が増えている状況あり。</li> </ul>										
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育委員会と連携し、食物アレルギー対応の明確な基準、基本的な方針を策定する。</li> <li>○食物アレルギーへの正しい理解と、学校、保護者との情報共有。</li> <li>○安全安心な学校給食の提供。</li> </ul>										
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○献立表に使用する食材を詳細に記載するとともに、アレルゲンとなる食材をマーキング表示し、学校及び該当する児童生徒の家庭へ事前に配布。それを基に保護者や担任の指示若しくは各自の判断で原因食材を除去する。</li> <li>○除去が困難な場合は、代替食として家庭から弁当持参。</li> <li>○牛乳アレルギー及び乳糖不耐症の児童生徒及び教職員（H29年度より）の希望者に対し、代替飲料として麦茶を提供。誤配防止のため、学校名、学年、該当者氏名を麦茶の側面に貼付し配送。 ・H30年度末代替飲料提供者数 24名(小学生14名、中学生8名、教職員2名)</li> <li>○低アレルゲン対応カレー「まだ名のないカレー」が「富良野あまくちトトコカレー」の名前で提供開始。</li> </ul>										
評価						達成度・効果度の検証					
	達成度	H26	H27	H28	H29	H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○詳細な献立表の配布により、各自が除去すべき原因食品を把握することができた。</li> <li>○代替飲料に名前を貼付することにより、誤配防止につながった。</li> <li>○現施設・人員の中でできることは、上記詳細献立表の配布及び代替飲料を配布することが最大限である。加えて、命に係わる事項でもあり、安易な取り組みはできない。</li> </ul>				
今後の取り組み	<p style="text-align: center;"><b>今 後 の 課 題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食物アレルギー対応の基準、基本的な方針の策定。</li> <li>○学校、保護者、給食センターでの食物アレルギーに対する共通認識と情報の共有。</li> </ul>										
	<p style="text-align: center;"><b>改 善 策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食物アレルギーを有する児童生徒の的確な把握。</li> </ul>										



## IV 平成30年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめたものです。

なお、自己評価値は、評価基準を「4:実践が進み効果を上げている 3:実践が進んでいる 2:実践につとめている 1:努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

観 点	自己評価(平均) ( )内は前年度
-----	----------------------

## 《評価領域：組織運営の状況》

## ＜項目：学校の組織運営の状況＞

1	職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	4.0(4.0)
各学校の 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議は学校経営方針等を職員に深く浸透させる場として有効に機能している。</li> <li>・各自事前に議題を確認し、内容によっては各分掌内で事前に十分検討し、提案している。会議前日までは資料を配布し、事前に目を通すことで効果的な会議を運営している。</li> <li>・議案は、職員会議の約5日前に提出させ、事前の確認・配布により会議をスムーズに運営している。</li> <li>・議題の集約や議案の事前配布がなされ、校長の方針等の共通理解を図る場や児童生徒の実態交流など学校運営を円滑に進めるために有効に機能している。</li> <li>・事前の分掌会議で議案を検討するなど、実践策についての組織的な合意形成の場として機能させている。</li> <li>・議案の提出原則会議の1週間前に設定し、校長による点検の時間を充分に取れるようにしている。</li> <li>・議題の確認を2週間以上前から行い、各分掌・学年・委員会で十分に議論を重ねて提案されている。組織として提案することで、教職員の参画意識も高まっている。</li> <li>・学校経営方針の意思伝達や職務の円滑な執行に有効に機能している。</li> <li>・各分掌や学年で事前に検討した上で提案され、さらに全教職員による活発な協議がなされ、円滑な学校運営に有効に機能している。</li> </ul>	
評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
2	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス管理が適切に行われているか	3.9(4.0)
各学校の 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間管理や研修等の承認、サービスの管理等が適切に行われている。</li> <li>・職員動静について、常に教頭を窓口とする体制が整っている。また、サービス規律厳守の意識を常に持ち続けられるよう、道教委記者発表の処分事例などについて定期的に朝の打合せで取り上げた。</li> <li>・管理職による指導助言のもと、適切にサービス管理を行っている。</li> <li>・教職員の共通理解のもと、適切なサービス管理に努めているが、勤務時間の管理については十分な対応とは言い難い。改善に向けた方策を具体化して取り組んでいる。</li> <li>・働き方改革の推進のもと、時間短縮の意識をもつとともに、長期休業中の勤務管理を適切に行い、勤務時間縮減に取り組んでいる。</li> <li>・複数担当者による定期的な諸帳簿等の点検も実施しながら、勤務時間や職専免研修の承認などサービス管理等は適切に実施している。</li> <li>・勤務時間縮減に計画的に取り組み、サービス管理にも十分に注意を払っている。</li> <li>・長期休業日の勤務時間管理等のサービス管理を適切に行っている。</li> </ul>	
評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教員の業務の見直しとともに、校長・教頭の多忙についても解消に向けて取り組みが進むことを期待します。</li> </ul>	

＜項目：学校と設置者の連携の状況＞		
1	設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の教育方針に基づき学校運営に努めている。</li> <li>・富良野市教育行政執行方針及び富良野市教育推進の重点を踏まえた年度の重点目標を設定するとともに、本校の学校経営のグランドデザインをPTA総会にて説明し、保護者や地域の願いや期待に応える教育活動を推進し、相互理解の確立に努めている。</li> <li>・富良野市学校教育推進計画に基づいて学校教育目標を設定し、年度の重点目標を定め、教育活動を推進している。</li> <li>・教育目標から各分掌・各学級が具体的な行動目標を定めている。</li> <li>・市教委や道教委から示された教育方針に基づいて年度の重点を設定し、さまざまな場面で職員に周知している。</li> <li>・学校教育目標、年度の重点目標を市教委の示す重点目標に照らして設定し、教職員の十分な理解のもと教育活動を進めている。</li> <li>・富良野市第3次中期計画に基づき、具体的な重点教育目標を設定し、PDCAマネジメントサイクルを機能させた学校運営を行っている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	
2	学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切に共有しているか	3.8(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携と情報の共有に努めている。</li> <li>・危機管理に関することは、どんな小さなことでもすばやく教育委員会に報告するとともに、他校や子どもネットワーク会議等の外部組織と連携しながら安全確保ができるよう努めている。</li> <li>・共有した情報が速やかに具体的な対応に繋がる体制を整える。</li> <li>・児童の状況や安全に関わる情報は迅速に報告し、指導を受けている。</li> <li>・児童の安全に関わる情報については、迅速かつ適切に周知徹底している。</li> <li>・常に連携を密にして、情報の共有化と組織的な対応に取り組んでいる。</li> <li>・日常的に連絡を密に取り合い、双方向での情報の共有を図り、指導に生かしている。</li> <li>・設置者との情報共有を迅速適切に行い、生徒の安全管理に努めている。</li> </ul>	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と保護者間の情報連絡が、HPやメールの活用で迅速に行われていることに加え、個人情報管理の適切な管理をお願いしたい。</li> <li>・子ども安全を守るためには、外部組織との連携は幅広く共有できることが大事だと思います。地域との協力関係を深めてほしいと思う。</li> </ul>	

＜項目：目標設定と自己評価の状況＞		
1	学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育目標の具現化に向け、中期目標と短期目標を具体的に設定し、その実現に努め、成果も上がってきている。</li> <li>・学校評価や全国学力・学習状況調査、学力検査、QU、新体力テストの結果から本校児童の課題をまとめ、育成を目指す資質・能力を整理し、中期目標を設定している。</li> <li>・学期毎の目標、年間を見通した目標を設定し、達成状況を評価し、方策の見直しなどの具体的な改善を図っている。</li> <li>・年間を3期に分けた「ステージ（段階）制」を導入し、具体目標の設定・実践・反省の流れにそって教育活動を展開している。</li> <li>・児童、地域の実態を踏まえ、年度の重点教育目標を設定し、教職員、保護者・地域と共有している。</li> <li>・学校改善プラン、ロードマップにより具体的に示されている。</li> <li>・具体的な評価基準及び改善方策と改善計画を設定している。</li> <li>・ZERO運動発祥校として、富良野市教育をリードする気概をもち、中・短期の目標と年度の重点をおさえ、改善に努めながら学校運営を進めている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

2	<b>自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか</b>	4.0(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価の分析・考察を行い、学校改善に活用している。</li> <li>・自己評価結果や今後の方策について、学校運営協議会で意見をいただくことで学校運営の活性化につなげている。</li> <li>・自己評価結果や保護者アンケート等を分析し、教職員で共通理解を図り、次年度の学校運営の改善に反映させている。</li> <li>・評価結果を受けて、教育活動検討委員会・各部会・各分掌で改善に向けた方策を具体化して取り組んでいる。</li> <li>・教育計画に進行管理チェックリストを設定し、定期的な実態把握と改善を進めている。</li> <li>・自己評価結果を学校評価委員会及び学校関係者評価委員会で検討し、具体的な改善策を出している。</li> <li>・自己評価結果と学校関係者評価結果を学校改善プランに反映させ、学校運営に生かしている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・今後も自己評価の結果や各関係者の評価結果が学校運営に生かされるよう期待します。	
3	<b>外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としているか</b>	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・児童のアンケート結果及びコミュニティスクール協議会からの意見を参考に、自己評価の信頼性を高めている。</li> <li>・地域行事等、あらゆる機会を通して家庭・地域と情報を共有し、自己評価を行う上での参考としている。</li> <li>・学校経営・各部会・各分掌において保護者・児童生徒アンケートの分析結果を参考にし、評価を行っている。その中で、保護者・児童生徒アンケートと自己評価の相違点を分析し、学校運営の改善に反映させている。</li> <li>・保護者・CS役員の意見と内部評価を総合的に分析し、改善策に反映させている。</li> <li>・保護者を対象とした外部アンケートを実施し、その結果を職員会議で共有し、自己評価を行う際の参考としている。</li> <li>・保護者・生徒アンケートの回数を増やし、参考となる資料を自己評価に生かしている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

＜項目：学校関係者評価の状況＞

1	<b>学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか</b>	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価の結果と分析を学校運営協議会で説明し、改善点等の意見をいただいている。但し、自己評価の項目が委員にわかりづらいため、今後改善していく。</li> <li>・自己評価結果と考察を学校関係者評価委員に提示し、評価を受け、学校改善に生かしている。</li> <li>・自己評価の集約結果を資料として示し、評価項目を統一して進めている。</li> <li>・コミュニティ・スクール協議会において、自己評価の結果、分析に基づく改善策等の説明を通して具体的な意見をいただいている。</li> <li>・学校の自己評価結果を学校関係者評価委員に提示し、率直な意見等を受け、学校運営改善に生かしている。</li> <li>・学校運営に係わる評価以外に学力や体力に関する取組等、自己評価結果を踏まえ、学校関係者評価が実施できている。</li> <li>・CS協議会のなかで樹海小学校とともに学校関係者評価を実施し、自己評価に基づき幅広い意見を聞いている。</li> <li>・自己評価の結果・考察・妥当性を学校関係者評価から評価していただき、学校運営に生かしている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

2	<b>学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか</b>	4.0(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会での意見を十分に反映しながら、今年度の教育計画の立案及び学校運営改善に努める。</li> <li>・学校関係者評価委員の方から定期的に意見を伺うことで、学校運営の改善に生かしている。</li> <li>・自己評価の適切さ・改善に向けた具体的な方策についてCS委員より評価・意見をいただき、いただいた意見を基にして学校運営の改善に反映させている。</li> <li>・学校行事や参観日の際に来校していただき、いただいた意見や関係者評価委員会での意見等をまとめ、教育計画の改善に役立てている。</li> <li>・学校関係者評価の結果を、直接校務を分担する教職員に還元し、改善に活用することができた。</li> <li>・学校関係者評価の結果を全員で共有し、教育計画に生かしている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

＜項目：教育課程等の状況＞		
1	<b>学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか</b>	3.9(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会を組織し、校内研修や授業研究、管理職の授業参観等多様な方法を活用し、教育課程の編成、実施、評価、改善に努めている。</li> <li>・児童の実情に応じて教育課程の見直しを全職員で共通理解のもと進めた。地域の「ひと・もの・こと」を生かした特色ある教育活動を推進している。</li> <li>・本校の教育目標達成を踏まえ、教育課程を編成・実施している。また、常に確認・点検することにより、職員間で共通理解を深めている。</li> <li>・教育目標の達成に向け本校の教育課程編成の方向性の共通理解を図り、編成・実施し、学期末に修正を加えて、次年度の編成に向けて蓄積していく。</li> <li>・校内外の教育資源を生かした教育課程を編成し、ユニバーサルデザインの発想を基盤として実施している。</li> <li>・へき地、複式、小規模の3特性を生かし、地域に開かれた教育課程の編成、実施、評価、改善に努めている。</li> <li>・教育課程編成委員会を中心に、地域・児童の実態に合わせた教育課程が編成され、職員会議などで共有を図っている。</li> <li>・地域・児童の実情に応じ、特色ある教育課程を編成し、全職員の理解のもと実施している。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	
2	<b>各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか</b>	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示された時数を基準に、適切な年間指導計画を作成し、指導時数の確保を行っている。</li> <li>・教務主任を中心に年間指導計画を作成するとともに週案管理を適切に行い、授業時数の確保と進捗について確認している。加配教員や支援員を効果的に配置して教育的効果を高めている。</li> <li>・教育課程に沿った指導計画の基、教育効果を向上させる指導内容や方法・指導形態・指導体制を工夫し取り組み成果を上げている。また授業時数も年度当初の計画で学期毎のまとめの時数を確保するとともに毎月実施状況を確認し、調整を図っている。</li> <li>・適切な教育課程の編成と時数管理、小規模校の特性を生かした個に応じた指導により基礎的・基本的事項の確実な定着を図っている。</li> <li>・教務部を中心に週案を作成し、学期ごとに時数の点検を行い、指導改善を図っている。</li> <li>・特別教育支援員の活用や各学級への全職員による複数指導により、基礎的・基本的な内容の確実な定着、意欲の向上を図る指導体制が整備されている。</li> <li>・全体計画・年間指導計画等が教務の指導のもと適切に作成され、授業時数も週単位で集計され、計画に沿って配当が適切に行われている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

＜項目：授業の状況＞		
1	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか	4.0(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育資源の教材化を進め、体験的な学習が問題解決的な学習等を取入れ、児童が学習意欲を持ち、主体的な学習が行える指導を進めている。</li> <li>・研究部を中心に、算数の授業における言語活動の充実をねらいとし、「主体的・対話的な学び」の視点で授業改善を推進している。</li> <li>・小規模校の特性を生かし、個に応じた問題解決的な学習を進めた。また、小中併置校の特色を生かし、児童生徒が自然な姿で学び合う教育活動を推進することができた。</li> <li>・少人数の利点を生かし、児童生徒一人一人が十分に体験できる時間を確保し、学習意欲の向上や本物に触れることの大切さを実感させるための活動を積極的に取り入れた学習を展開している。</li> <li>・「為すことによって学ぶ」を基本方針とし、児童の自我関与を促すよう進めている。</li> <li>・研修係を中心に、課題設定の工夫や興味関心を高める教材の提示など、児童の意欲を高める指導に努めている。</li> <li>・地域・児童の実情に応じ、特色ある教育課程を編成し、全職員の理解のもと実施している。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	
2	視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか	3.9(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad、実物投影機、コンピューターの有効活用を進め、効果を上げている。</li> <li>・どの学級もノート指導や資料提示など、各教室に配備された電子黒板や書画カメラの効果的な活用に心がけている。また、ICT活用に関する研修会への参加を奨励し、個人のスキルアップを行っている。</li> <li>・それぞれの機器の有用性を生かし、理科や数学、英語や総合的な学習の時間等の活動を中心に活用した。児童生徒が視覚的に捉えることができ、理解の深まりに繋がっている。iPadのアプリを購入し効果的な活用を実践している。</li> <li>・各教科での資料提示や外国語でのデモンストレーション、総合的な学習の時間でのプログラミング教育用ソフトの利用を推進している。</li> <li>・日常的にデジタル教科書を活用したり、調べ学習などでパソコンを使ったりするなど、教育効果を高めるためにICTの活用を進めている。</li> <li>・全ての学年で、タブレットやデジタル黒板、実物投映機などを効果的に利用した授業の構築を図っている。</li> <li>・技術科を中心にコンピューター、情報通信ネットワークを効果的に活用した授業を行っている。また、各教科や道徳においてもICTを有効に活用した授業が行われている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・様々な教材を活用し、授業で活かされることは、学校訪問の際にも伝わり、勉強になりました。	

＜項目：特別支援教育の状況＞		
1	特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか	3.9(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のニーズ、将来を見通した支援計画を作成し、指導に努めている。新たなニーズが増えてきていることを踏まえ、一層の充実した指導を試行している。</li> <li>・個別の指導計画や個別の教育支援計画は、適切に作成されている。また、定期的に開催している生徒指導実態交流会において「校内研修プログラム」を活用し、合理的配慮を踏まえた授業改善を行っている。</li> <li>・コーディネーターを中心に児童生徒の到達目標と必要な支援を具体化した支援計画表を作成している。また、関係機関とも連携しながら保護者との共通理解を深め、学校と家庭で一貫した指導を行い、子どもたちの確かな変容をみることができている。</li> <li>・本校の特性（実情）を踏まえ、児童の成長の「役に立つ」ことを第一義として作成している。</li> <li>・支援コーディネーターを中心に「すくらむ」を作成し、全職員での支援体制を図っている。</li> <li>・授業の中での困り感や人間関係など生徒の状況把握に努め、望ましい支援のあり方を全教職員と保護者で共有しながら計画通りに進んでいる。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特別支援の生徒への対応、関わりに対し、本当に手厚く個別に指導されていると感じます。	

<b>&lt;項目：教職員の研修の状況&gt;</b>		
1	<b>授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか</b>	<b>4.0(3.9)</b>
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が実践・研究を通して、授業改善と指導力の向上に努めている。その成果も上がってきている。</li> <li>・授業研究の他に初任者層の指導は、日常的なコミュニケーションの中でミドルリーダーにあたらせ、育成を図っている。また、若手教員に対する日常的・継続的な指導や管理職による定期的な授業参観による研修を行っている。</li> <li>・児童の実態を踏まえ、ユニバーサルデザインの発想による授業改善を研修し、実践している。</li> <li>・校内研修では全教員が授業を行い、課題となっている部分を明確にしたうえで、授業改善に努めている。</li> <li>・授業研究や参観日などで計画的に授業を公開し、授業力向上を図る研修を中学校と連携を図りながら行っている。</li> <li>・校内研修を通して、全員が授業改善に取り組んでいる。また、校外への研究会等へ積極的に参加し、研鑽に努めている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

**《評価領域：組織運営の状況》**

<b>&lt;項目：生徒指導&gt;</b>		
1	<b>生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか</b>	<b>3.9(3.8)</b>
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期の相談に加え、随時の教育相談の実施も進めている。さらにはスクールカウンセラーによる教育相談との連携も進んできている。</li> <li>・いじめアンケートやQ Uを有効に活用し、児童の悩みや問題行動を早期に発見するために教育相談を計画的に行っている。</li> <li>・定期・臨時を問わず行われ、日常的なカンファレンスや定例の生徒指導交流会を通じて共有化している。</li> <li>・計画的な教育相談の実施と日常的な指導を通じ、いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見に努めている。</li> <li>・教育相談期間を設定し、結果を朝に実施している実態交流で報告している。</li> <li>・いじめの未然防止や生徒一人一人に寄り添う教育を目指し、年間2回の定期的な教育相談を実施している。また、日頃より実態に応じて教育相談を実施している。</li> <li>・教育相談に計画的に取り組むと共に、必要に応じて個別の面談を実施している。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	
2	<b>スクールカウンセラーなどの外部人材が活用されているか</b>	<b>3.5(3.8)</b>
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童とともに保護者も含めた活用を進めている。その効果も大きい。</li> <li>・スクールカウンセラーや子ども未来課など関係機関と連携して、児童虐待の疑いがある児童へ適切に対応している。</li> <li>・主に学習・生活指導・保健指導に係わり、必要に応じて連携が図られるよう体制を整えている。</li> <li>・現状、カウンセラー活用の事案は見られないが、事例研等を通して指導体制の整備に努めている。</li> <li>・スクールカウンセラーは月に2回、生徒、保護者、教職員のカウンセリングに当たっており、定期的な面談を通して効果が出ている。</li> <li>・富良野市のスクールカウンセラーによる継続した相談活動や、医療機関との連携を図るなど有効に外部人材を活用することができている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

＜項目：児童生徒の人格的発達の状態＞		
1	相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成するための指導を行っているか	3.8(3.9)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かな人間関係を基盤とした教師の指導とともに、児童会の取り組みを進めている。</li> <li>・日常の授業や行事等の中で、自分や友達のよさを実感できる場を設定するなど、豊かな心を育む道徳教育の充実に努めている。</li> <li>・道徳の授業を基軸に、全教育活動を通じて道徳教育を推進している。また、豊かな人間関係を築くための各種取組を行っている。</li> <li>・ボランティア活動、読書活動、日常の教育活動、道徳の授業の充実に努めた。参観日で全学級とも道徳授業を公開し、懇談では保護者とともに考える時間も設定した。</li> <li>・「居心地のよい学級づくり」について共通目標・研修課題とし、Q-Uのデータも活用しながら指導している。</li> <li>・穏やかに接し、常に子供たちに寄り添いながら指導している。</li> <li>・道徳の時間を中心に、全ての教育活動において実施している。自分事として考えることができるよう、実態に応じて題材を選定した授業を行っている。</li> <li>・温かい人間関係を醸成する言語環境の整備、「あいさつ運動」の徹底を図り、コミュニケーション能力向上を図っている。</li> <li>・学年の実態に応じ、全教育活動を通じて道徳の時間に相手の人格を尊重し、豊かな人間関係をつくれる生徒を育てる指導を行っている。また道徳を参観授業として積極的に行っている。</li> <li>・ZERO運動を基盤として、思いやりをはぐくむ道徳教育を推進している。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

＜項目：保健管理の状況＞		
1	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	3.9(3.9)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員で児童生徒の健康観察に努めている。また、保健室経営を充実させ、児童生徒の自己健康管理能力の向上を図るとともに、健康の保持増進に努めている。</li> <li>・毎朝の健康観察により、児童の健康状況を的確に把握するとともに、生活リズムチェックシートの活用など学級活動・保健の指導を工夫し児童生徒の自己健康管理能力の向上を図っている。</li> <li>・日常的な健康観察など、担任と養護教諭の連携を強化。自己管理能力の向上のための保健指導を定期的に行っている。</li> <li>・養護教諭と担任が密に連携を図り、自己の健康管理能力向上のための保健指導を行っている。</li> <li>・日常的な健康観察や健康診断が適切に行われている。また、保健だよりを活用し、自己健康管理能力向上にも努めている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

＜項目：安全管理＞		
1	学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか	3.7(3.8)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルの整備。活用と防犯カメラの活用により、緊急事態に対応できる体制づくりと危機管理意識の向上に努めている。</li> <li>・学校独自のヒヤリ・ハットマップを作成している。また、危機管理マニュアルは、不測の事態に備えたものとなるよう、足りない部分もあるので早急に改善する。</li> <li>・不測の事態に対処できるよう、危機管理マニュアルを作成し全職員で共通理解を図っている。また、地域と協力し、安全教育の推進とともに事故防止に努めた。</li> <li>・校内での緊急情報共有シート（連絡・確認マニュアル）の作成するとともに、不審者対策として管理職間での情報共有の申し合わせを行っている。</li> <li>・適宜危機管理マニュアルの更新を行い、一人一人にファイルを渡し、朝の会での確認などにより全員が共通行動とれるようにしている。</li> <li>・危機管理マニュアルの見直しを行い、緊急事態に対応できるように教職員全体で共通認識を図っている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

＜項目：進路指導(キャリア教育)の状況＞		
1	児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	3.8(3.7)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導にもキャリア教育の視点を重視し、体験的な学習や問題解決的な学習、地域の指導者の協力を得た活動、マイノートの活用検討を進めている。</li> <li>・勤労観や職業観を育むために、学校教育全般での指導を行った。</li> <li>・小中の連携のとれたキャリア教育の全体計画の作成し、「マイノート」を活用して、社会で自立していくための職業観や勤労意欲の向上に向けた効果的指導の改善を図った。</li> <li>・地域の方にGTとして「仕事の苦労や喜び」について講話していただいたり、一人一人が持っているキャリアノートを活用した授業を実践している。</li> <li>・総合的な学習の時間を核として、各学年キャリア教育の時間を確保し適切な勤労観や職業観や職業学年の発達段階に応じた職業体験等、進路や生き方に繋がるキャリア教育を実施している。また、ふるさとキャリア教育推進事業の継続した取組として小中高の連携を通じた実践も行われた。観を育む指導を行った。</li> <li>・全学年での農園活動による勤労体験、1年生の職業講話や2年生での職場体験学習、3年生の進路学習など計画的にキャリア教育の指導を進めている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・職場体験や実習を選ぶ際、なかなか一つに決められない事もあると思うので、広く見学の機会を与えてあげてほしい。	

## 《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》

＜項目：学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況＞		
1	児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応しているか	3.8(3.9)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の児童の観察や対話、参観日や懇談会等での保護者の意見、保護者アンケートなど多様な機会を活用して意見・要望の把握に努めている。</li> <li>・学校行事や参観日・PTA行事等を通して、児童生徒や保護者の意見や要望に耳を傾け、学校運営の改善に努めた。</li> <li>・児童生徒・保護者の意見を、より明確に学校経営に反映させるため、学校評価の改善に取り組んでいる。</li> <li>・地域の方にGTとして「仕事の苦労や喜び」について講話していただいたり、一人一人が持っているキャリアノートを活用した授業を実践している。</li> <li>・各行事、懇談、PTA行事や保護者アンケートの実施等、あらゆる機会を捉え、生徒や保護者の学校への要望を把握し、学校運営の改善に努めた。</li> <li>・参観日の懇談、年2回の保護者・生徒アンケートの実施、家庭訪問や電話により満足度や要望を把握し、適切な対応に努めている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

＜項目：学校に関する情報提供＞		
1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	4.0(4.0)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより（毎月発行）や学年通信（毎週発行）、父母と先生の会発行「学校の窓」、参観日の校長講話等を通して、情報公開を進めている。</li> <li>・学校だよりや学年・学級だよりを適時発行し、保護者に対して学校・学級の様子や子どもたちのがんばりなどを分かりやすく伝えている。</li> <li>・保護者の知りたい情報に対応するために内容を吟味し、学校便りを定期的に発行している。また、Facebookを活用し学校の情報公開を行っている。</li> <li>・校区への学校だより全戸配布や各学級担任発行の学級だよりを全学級で行い、情報の伝達・公開に努めている。</li> <li>・学校だより、学級だより、事務だよりの定期的な発行、まちこみメールによるタイムラインの有効活用など、適切に情報の伝達・公開が行われている。</li> </ul>	
評価委員の意見	・特になし	

2	<b>ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組を行っているか</b>	<b>3.6(3.5)</b>
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や子どもたちの様子が伝わるように定期的にホームページを更新し、広く地域に学校の情報を提供している。</li> <li>・Facebookを開設し教育活動や学校の特徴、小規模校ならではの手厚い個別指導など、常に新しい学校の情報の提供に努めている。</li> <li>・学校便り・ホームページ（分掌業務として随時更新）・PTAだより・学級通信等、学校と児童の姿を総合的に発信している。</li> <li>・学校便りだけでなく、各種行事への取り組み、地域参観日、ふるさと学習、PTA研修会等、学校の教育活動について広く公開している。地域的にホームページの活用は多くはない。</li> <li>・HPを適時更新している。また、マチコミメールの活用を活用して、保護者に学校の取組や不審者情報等を積極的に発信している。</li> <li>・ホームページの定期的な更新、自治会や町内会の協力による学校だよりやPTA総会資料等の地域配布、地区教育懇談会の開催など情報発信に努めている。</li> </ul>	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP等の閲覧できない世代の地域住民へ、町内会等を通じて学校頼り等の回覧があるが、他地域の情報も発信してほしい。</li> <li>・地域の高齢化が進んでおり、情報提供手段としては即時性は劣りますが、配布物の方が効果は高いのではないのでしょうか。</li> </ul>	

＜項目：保護者・地域社会との連携の状況＞

1	<b>授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか</b>	<b>3.8(3.9)</b>
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野自然塾、地域の指導者との協働を志向した授業実践を進めている。また、学校ビオトープなどで身近な自然活用も志向している。</li> <li>・地域の教育資源を効果的に活用するための地域人材・素材リストの作成とその共有化を図り、特色ある教育活動を進めている。</li> <li>・地域ふれあい祭りや高齢者との交流、職場体験学習等を通じて、教育活動に地域の教育資源を積極的に活用している。</li> <li>・自然・農業分野を中心に、一部はキャリア教育との関連性も持たせながら積極的に活用している。</li> <li>・富良野の自然環境を生かした森林学習プログラム、メセナ協会事業、富良野ゆかりの講師による心に響く道徳指導等、地域人材の活用を行っている。</li> <li>・総合的な学習の時間で1年は富良野ウォーカー「職業調べ」2年は「職場体験学習」で地域で活動するなど、地域の多様な人材を活用し、教育活動の充実を図っている。</li> <li>・地域の教育資源（保育所、寿光園、青年部獅子舞、職場企業、植物、建造物等）を積極的に活用し、授業内容の充実に努めている。</li> </ul>	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

※評価基準      4：実践が進み成果を上げている      3：実践が進んでいる  
                          2：実践につとめている      1：努力を要する



## V 教育行政評価委員会の開催について

### 1、教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は、委員4名の委嘱により、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定による事務事業等の点検・評価の実施及び教育行政評価委員会設置要綱に基づく富良野市学校第三者評価を行いました。

事務事業等の点検・評価では、教育委員会から提出した資料（教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価52事業）について事務局より説明し、それに対する教育行政評価委員側からの質疑を交え意見交換を行いました。

学校第三者評価では、学校自己評価及び学校関係者評価の結果並びに学校第三者評価項目に対する学校自己評価結果について説明をするとともに、市立樹海小学校、市立樹海中学校、市立山部中学校の学校訪問を行い、さらに校長会会長、副会長との意見交換を行いました。

- 1) 第1回会議 5月27日（月）
  - 教育委員会事務事業点検・評価シートの説明、質疑
  - 教育委員会の活動状況の評価説明、質疑
  - 学校関係者評価集約結果の説明、質疑
  
- 2) 第2回会議 7月 8日（月）
  - 学校訪問～市立樹海小学校、市立樹海中学校、市立山部中学校
  
- 3) 第3回会議 7月25日（木）
  - 学校訪問における感想、意見交換
  - 校長会長、副会長との意見交換
  - 事務事業点検評価項目の質疑に対する説明
  - 広域連合教育委員会教育行政評価報告書について
  
- 4) 第4回会議 8月21日（水）
  - 学校第三者評価のまとめ及び報告書の最終確認について

## 2、教育行政評価委員会における意見

### 1) 教育委員会の活動状況について

教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐にわたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論をし、富良野市の教育の基本理念を確認し共有することが益々大切となっています。

平成27年4月から教育委員会制度の改革が行われ、地方教育行政における首長の責任がより明確となり、首長のもとで地方公共団体が一体となって教育施策を進める体制となりました。本市においても、首長が主宰者となり、富良野市総合教育会議を開催しています。

教育委員の学校訪問については、より一層、学校課題に対しての指導・助言を行うよう意見が出されました。

### 2) 「教育委員会事務事業点検・評価」について

「第5次富良野市総合計画前期基本計画」並びに「平成30年度富良野市教育行政執行方針」、「平成30年度富良野市学校教育推進の重点」、「平成30年度富良野市社会教育推進計画」、「富良野市第2次特別支援教育マスタープラン」に基づいて平成30年度中に実施した主な事務事業52事業と教育委員会活動状況について事務局で整理し、第1回会議にて説明いたしました。各委員からの9項目に渡る質問・意見について担当課と意見交換をし、事業効果の向上、期待どおりの効果が得られている、更なる改善への意見が出されました。

### 3) 学校教育について

教育委員会に課せられた最大の職務は学校教育の充実にありますが、市内の小中学校では平成30年度改訂した「富良野市第3次学校教育中期計画」に基づいて教育活動計画等を策定し、毎年の検証・評価を経ながら教育活動を改善しています。

また、長期休業日における学習サポート事業は全学校で実施し、児童生徒の学力向上に向けて教職員一丸となり取組んでおり、今後も学力向上に向けて、学力の基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高めながら子どもの個性を生かす教育を充実するとともに、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価、改善のより一層の計画的な推進が必要であります。

また、各小学校、更には平成30年度より中学校においても、コミュニティ・スクールが導入され、それぞれの地域の特性を生かしながら、学校・保護者・地域住民が一体となって学校を支えるとともに、保護者や地域住民が学校を評価することにより教育の質を高めています。

#### 4) 社会教育について

社会教育は、個人の要求に応えることではなく、市民の必要課題に基づく学習内容に対応する企画立案や社会教育関係団体の育成等、生涯学習の観点に立った推進が大切です。

社会教育に関する各種事業は社会教育中期計画並びに単年度社会教育推進計画に基づき実施されており、その内容、効果度には高いものがあります。しかし、「市民講座」は、達成度・効果度とも評価開始以降B評価が続いているので、点検評価の課題解決に向けた取り組みが必要であります。

「ことぶき大学」は、初めて効果度がAとなり、受講生の減少傾向もあるものの、生涯学ぼうとする方々にとってかけがえのない取り組みとなっています。

#### 5) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けや教諭を評価するためのものではなく、保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い「開かれた学校」をめざすものであります。

学校第三者評価は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長・副会長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取り組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

今後も、評価項目のみならず学校運営全般に関し、自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価の結果を、より良い「開かれた学校」のための貴重な資料として各学校において活用する必要があります。

#### 6) 校長会会長・副会長との意見交換

富良野市第3次学校教育中期計画及び富良野市学校教育の重点方針における基本理念や重点方針を受け、各校では学校経営と学校教育において、その実現への方向性が示されていることは、大切なことであります。

学力と体力の向上、心の教育の充実に向けた取り組みが全校で推進され、学力向上やいじめ防止を含めた生徒指導の充実が図られています。

また、働き方改革について、意識改革が進んできていることから、教育の質を上げるためにも更に努力してほしい。

校長会として、本市の教育の充実・発展に向けてリーダーシップを発揮しています。

最後に、これからの教育を担うミドルリーダーを含めた後継者育成が必要であり、各種取り組みをさらに進めてほしい。



市立布部小中学校マスコットキャラ  
「めのべ犬」

## 資料：1

## 富良野市教育行政評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、富良野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法（昭和22年法律第26号）第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則（昭和56年教育委員会規則第2号）第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1)教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べること。
- (2)学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

(構成)

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度末までとする。

(運営)

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。
- 4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、公布の日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

## 資料：2

## 教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	阿 部 敏 幸	学識経験者（元学校長）
委員	木 戸 秀 子	富良野市スポーツ推進委員会会長
委員	中 田 昭 子	社会教育団体役員

## 資料：3

## 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 資料：4

## 平成30年度 学校教育重点事項

～ すべては子どもたちのために ～

平成30年4月1日

富良野市教育委員会

## ＜基本理念＞

「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」

(富良野市第3次学校教育中期計画)

## ＜重点方針＞

教育の原点である知育・徳育・体育の着実な育成を基本に据え、「すべては子どもたちのために、そしてすべての子どもたちのために」を合言葉に、子ども達の無限の可能性を伸ばす教育の充実に努める。

また、子どもたちが未来を拓き変化の激しい時代をたくましく生き抜く「生きる力」を地域全体で育むために、学びの大地に大きく育つ三本の木としての『富良野市ZERO運動』を推進し、教育実践の輪を広げる。

## ＜重点課題＞

- 1 「富良野市いじめZERO推進条例」に基づく、いじめの未然防止と早期発見・迅速な対応を図る。
- 2 コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の進展と中学校への導入を図る。
- 3 確かな学力・体力向上をめざし、授業改善及び授業公開と家庭学習を含めた規則正しい生活習慣の定着を図る。
- 4 外国語教育における次期学習指導要領の円滑な実施に向け、外国語・外国語活動を先行実施する。
- 5 「子どもたちのための食育ガイドライン」の見直しとともに、学校における食物アレルギー対応指針を策定する。

## <重点項目>

### 1. 主体的な学びを育てる 知育の木

#### 1) 学力向上について

- 全国学力学習状況調査及び小学生を対象とした標準学力検査（N R T）の実施により、その結果を分析し、学習指導方法の工夫改善や学習環境づくりに取り組む。
- 「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校の取組や成果を市内小学校への普及に努める。
- 地域の方々や学校内外の教職員に対する「授業公開」「研究授業」を積極的に進め、「地域に開かれた学校づくり」、「教員の授業研究、授業改善」に向け取り組む。（年2回程度の地域授業公開の実施）

#### 2) 環境教育

- 東大演習林の恵まれた森林資源を活用した森林学習プログラムを7校で実践する。
- 「富良野自然塾」などの活用により、本市における自然環境を生かし、様々な体験活動を通して、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などを培う教育の充実を図る。

#### 3) 外国語教育について

- 次期学習指導要領（小学校）の外国語及び外国語活動を先行実施する。
- 外国語指導助手（A L T）の増員を図り、小中学校へ派遣するとともに、外国語活動推進委員会において、推進体制や指導形態の工夫改善に向けて小中連携による外国語活動を推進する。
- 外国語教育を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成に向け、「英語が話せるふらのっ子」をめざした取り組みを推進する。

取組例：「放課後英語ランド」、「朝の英語活動」、「イングリッシュキャンプ」など

#### 4) 特別支援教育について

- 幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校等への円滑な引き継ぎを図るため、特別支援教育アドバイザーを配置し、学校や保護者に対する相談、支援体制の充実を図る。
- 一人ひとりのニーズに応じた教育を推進するために特別支援教育支援員を25名配置し、校内における支援の充実を図る。

配置校 富良野小学校 8名、東小学校 6名、扇山小学校 5名

鳥沼小学校、山部小学校 各1名

富良野東中学校、富良野西中学校 各2名

- ・就学前児童への子どもの成長記録ファイル「すくらむ ぶらの」を活用し、学校間の引き継ぎ等における活用を推進する。

## 5) 学校における読書活動の推進について

- ・市立図書館と各学校との連携や学校支援ボランティアの協力による読み聞かせの実施など、児童生徒の読書活動を地域ぐるみで推進する。
- ・4小学校をモデル校とし、学校司書2名を新たに配置し、学校図書館の活性化を図るとともに、図書システムの導入及び更新を実施し、蔵書管理及び貸出返却業務の効率化を推進する。

## 2. 自主自律の心を育てる 情意の木

### 1) いじめ ZERO（ゼロ）の推進について

- ・「富良野市いじめZERO（ゼロ）推進条例」に基づくいじめの未然防止、早期発見・迅速な対応と、その根絶に向けて学校・家庭・地域の連携を図る。
- ・いじめZERO（ゼロ）に向けて、児童生徒から標語の募集を行うとともに、いじめ防止に向けた研修会を開催する。

### 2) 心の教育について

- ・学校教育アドバイザー、適応指導教室指導員、子どもと親の相談員（臨床心理士）、及びスクールカウンセラー（臨床心理士）を引き続き配置し、子どもたちの心の問題をケアできる体制づくりを図る。

※子どもと親の相談員、スクールカウンセラーの配置について

- 1) 富良野西中学校、山部中学校、扇山小学校 …………… 松田 剛先生
- 2) 富良野東中学校、樹海中学校、富良野小学校、東小学校 …… 石黒三知子先生

生

- 3) 必要に応じて他校においても対応可能

### 3) 学級集団アセスメント（hyper-QU）について

- ・よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート（hyper-QU）の実施により、児童生徒個々の意欲・満足感や学級の雰囲気客観的に把握し、教員同士が互いに連携し 明るく元気な学校・学級づくりを推進する。

### 4) 道徳教育について

- ・富良野にゆかりのある講師陣による「心に響く道徳教育」を推進し、豊かな情操や生命倫理、規範意識の醸成を図る。

### 5) キャリア教育について

- ・望ましい自己有用感と職業観や勤労観の育成を図る。
- ・各学校が、各教科及び各種事業をキャリア教育の視点でも捉え、有効活用を図る。
- ・昨年度までの「小中高一貫ふるさとキャリア教育」研究校の実践・成果などを市内各小中学校と共有し、活用を図る。

### 6) 情報教育について

- ・学校、家庭、PTA、関係機関団体との連携により情報モラル教育を推進する。
- ・家庭でのルールづくりや危機管理の徹底を図るとともに、家族の約束7か条の推進とネット被害から子どもたちを守る取り組みを進める。

## 3. 恵まれた環境と食で育てる 健康の木

### 1) 体力向上について

- ・全国体力運動能力、運動習慣等の結果を踏まえ、体育・健康に関する指導の改善及び家庭における規則正しい生活習慣の定着に努める。

### 2) 食育について

- ・「子どもたちのための食育ガイドライン」の見直しを行うとともに、子どもの発達段階に応じた食育を栄養教諭と養護教諭の連携により実践する。
- ・学校給食の「食べ残しゼロ」運動を推進するとともに、基本的な生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動をPTAと連携し推進する。

### 3) 健康教育について

- ・計画的な性教育、薬物乱用防止教育を推進するとともに、校内における健康相談体制の充実を図る。
- ・学校における食物アレルギー対応指針を策定する。
- ・児童生徒の歯の健康づくりに向けて、全小中学校でフッ化物洗口を実施する。

### 4) 防災教育・危機管理について

- ・自然災害、事故、事件等に対する危機管理体制の徹底を図るとともに、防犯訓練及び災害発生時の実技訓練を実施し、児童生徒の安全対策の充実を図る。
- ・児童虐待問題は、こども未来課や児童相談所、警察署等関係機関との連携を図り対応する。

## 4. 原点を見つめ未来への輪を広げる 学びの大地

### 1) コミュニティ・スクールの導入について

- 地域とともにある学校づくりをめざして、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることのできるコミュニティ・スクール制度を中学校への設置を推進するとともに、既設置校については活動の促進を図る。

### 2) コミュニケーション能力の向上について

- 児童生徒のコミュニケーション能力の向上に向けて、演劇手法を取り入れたワークショップを小中学校で実施する。
- 「文化芸術による子どもの育成事業」（文化庁事業）の継続活用により、演劇活動や演劇鑑賞を通して児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の向上と個性の創出などを図る。
- 教職員を対象に演劇的手法を活用した教職員研修の継続実施と充実を図り、コミュニケーション能力の育成に向けた教育を推進する。

---

平成30年度  
富良野市教育行政評価報告書  
教育委員会事務事業点検・評価  
学 校 第 三 者 評 価

発行：令和元年8月

富 良 野 市 教 育 委 員 会

---